

令和6年度

# 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

## 神奈川県

自治体名：神奈川県

担当課名：教育局 指導部 保健体育課

電話番号：045-210-8312

## 基本情報

面積	2,416.32km <sup>2</sup>
人口	9,211,259人
公立中学校数	408 校
公立中学校生徒数	196,689 人
部活動数	4,364部活
都道府県の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
都道府県の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

## 地域連携・地域移行における都道府県の現状・課題

### ○ 県内の現状

県全体としては、部活動の地域移行について模索を続けている状況である。各市町村では、部活動指導員や外部指導者の地域人材を活用し、地域連携を進める取組がまだまだ多いが、これと並行し多くの市町村で地域移行に向けた協議会を設置して検討を進めていることが県地域クラブ活動コーディネーターの市町村訪問等からわかってきている。改革推進期間については、それぞれの地域の実情に応じて引き続き休日の地域移行を進めていく状況である。

### ○ 課題

#### 「指導者の確保」

文化スポーツ観光局スポーツ課が進める人材データベースのシステム構築、研修講座のオンデマンド化により、必要な体制の整備が進められることで、指導者の登録とマッチング、

質の担保でもある研修講座の促進を計画している。また、昨年度から継続し「地域クラブ活動コーディネーター」の配置を2名体制とし、各市町村の地域移行の進捗状況の把握、近隣市町村間の連携に係る情報提供、調整・助言による支援、地域移行に係る協議会及び連絡会等への参画を中心に活動していく。加えて、各市町村担当者と連携を図りながら、つながりをさらに深める。市町村が指導者をスムーズに確保できるよう、人材データベースの活用を促す。

#### 「広域連携」

県西地区の一部について広域連携に向けて会議を複数回開催し、担当者同士で意見交換や、連携の方法などを模索してきた。令和7年度は、「できるところから」連携できる内容について試行が進められるように、継続的に県でも支援していく。



## 令和6年度の地域クラブ活動コーディネーターの取組について

### 柱となる取組

県内各市町村の地域移行の取組の進捗状況を把握するとともに、課題を整理した上で、先行的な取組を行う市町村への重点的な支援を行う。

【イメージ】

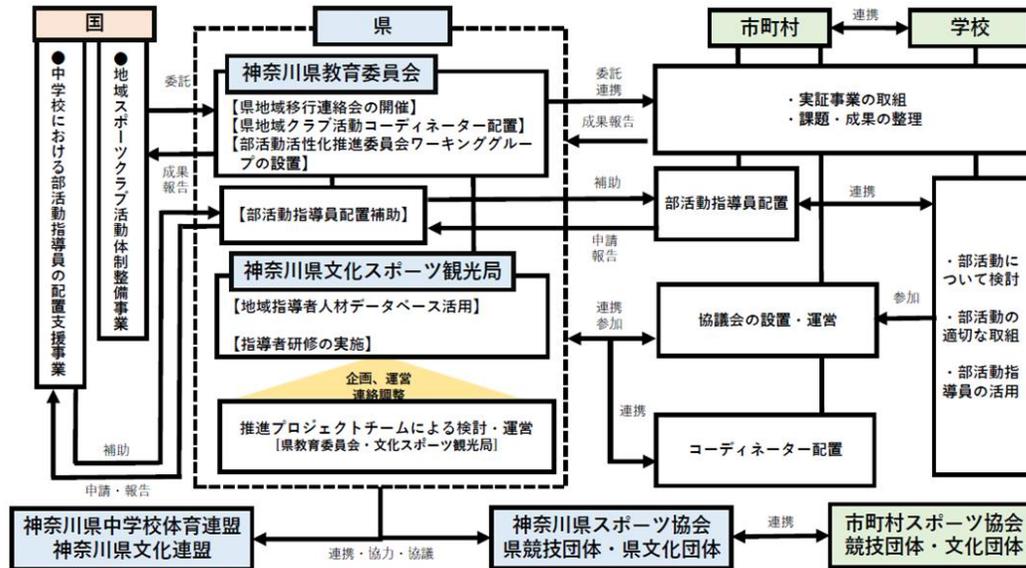


- 各市町村の地域移行の取組の進捗状況の把握**  
→令和5年度に訪問できていない市町村の取組の進捗状況を把握する。
- 広域連携及び先行的な取組を進める市町村に対する重点的な支援**  
→先行的な取組を進めている市町村に重点的な支援を行い、その取組を他市町村に波及させる。
- 調整・助言による支援**  
→地域クラブと市町村・学校との関係構築について調整・助言による支援、人材DB登録者の周知及び活用を促進する。
- 地域移行に係る協議会及び連絡会等への参画**  
→市町村が実施する地域移行に係る会議等に参加し、情報提供や地域の課題解決に向けた検討等に助力するほか、県が主催する連絡会の企画等に参画する。

# 2.実証内容と成果

## 運営体制・役割

### ●運営体制図（都道府県における推進体制図）



### ●行政組織内での役割分担

#### ◎教育委員会

- ・各市町村の教育局との連絡・連携・支援に関すること
- ・県地域クラブ活動コーディネーターに関すること

#### ◎首長部局

- ・指導者の確保、研修に関すること
- ・各市町村スポーツ、文化主管課との連絡・調整等
- ・県スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ等との連絡・調整等

## 年間の事業スケジュール

### 4月

- ・秦野市、藤沢市、開成町と再々委託契約締結

### 5月

- ・大磯町との再々委託契約締結
- ・県地域クラブ活動コーディネーター活動開始（契約後から年間を通じて）
- ・各市町村への支援等（年間を通じて）

### 7月

- ・県部活動地域移行連絡会①
- ・地域クラブ活動指導者研修①

### 10月

- ・広域連携に係る担当者打合せ
- ・県部活動地域移行連絡会②
- ・部活動活性化推進委員会部活動の地域移行ワーキンググループ①

### 11月

- ・地域クラブ活動指導者研修②

### 令和7年

#### 1月

- ・部活動活性化推進委員会部活動の地域移行ワーキンググループ②

- ・先進地域視察訪問（千葉県柏市）

#### 2月

- ・県部活動地域移行連絡会③

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

##### 取組事項

- 県部活動地域移行連絡会の開催（年3回）
- 部活動の地域移行に係る庁内連絡会議（年3回）
- 県部活動活性化推進協議会ワーキンググループ会議（2回）
- 部活動地域移行関係5課担当者打合せ（月1回程度）
- 県地域クラブ活動コーディネーターによる県内市町村訪問、取組状況の聞き取りや相談活動など

##### 取組の成果

- ・県部活動地域移行連絡会で県内市町村及び他県の先行事例や国の動向など情報提供したほか、参加者同士の情報交換や協議を行った。（連絡会参加者…市町村教育委員会・スポーツ文化主管課、県域のスポーツ・文化連盟及び協会、総合型スポーツクラブ等、少年団、競技団体、学校職員、PTA関係者等）
- ・部活動活性化推進協議会より、中学校部活動に関する団体のみでワーキンググループ会議を2回開催し、地域移行に関わる県の取組や国の情報提供・情報共有を行い、県の取組について、意見を聴取する機会を設け、今後の県の取組に向けて参考にすることができた。
- ・各市町村の部活動地域移行担当部署と連携し、各市町村の進捗状況について把握することができた。
- ・県地域クラブ活動コーディネーターが市町村訪問し支援を行ったことで、次年度実証事業へエントリーするなど、地域移行の取組が進んだ。
- ・市町村の協議会等に参加し、情報共有に加え必要に応じて助言や事例紹介を行うことができた。

##### コーディネーターの具体的な動きの実績

- 令和5年度から県教育委員会担当者（保健体育課）とともに県内全33市町村（政令市を含む）を訪問し、各自治体担当者に部活動及び地域移行に係る取組状況を聞き取り（地域移行の方針の策定状況、協議会の設置状況、コーディネーターや人材バンクの有無等）必要に応じて支援を行った。

##### 今後の課題と対応方針

- 県部活動地域移行連絡会参加者のアンケートより、各自治体・団体等が具体的な事例を求めていることが分かったため、次年度以降も国の動向や県内外の先進事例等、連絡会において情報発信・情報共有に努める。
- 関係課の連携が重要であり、次年度も連携しながら、各課で地域移行へ主体的に取り組む必要がある。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

**イ：指導者の質の保障・量の確保**

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

### ●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

#### かながわ地域クラブ活動指導者データベースの運用

- ・令和6年1月に設置した人材バンクである「かながわ地域クラブ活動指導者データベース」を運用し、指導者の確保に努める。
- ・人材バンクへの登録には、登録要件を設け、**指導者の質を担保**。
- ・大学や県スポーツ協会と連携し、人材バンク登録指導者数の増加を図った。

#### 人材バンクの人数

運動系指導者315名  
文化系指導者 28名  
合計 343名

※数値は令和7年1月24日現在

#### 今後の方針

データベースをシステム化し  
利便性の向上を図る。

#### 人材バンクの年齢構成

	運動	文化
10代	8名	0名
20代	87名	5名
30代	34名	3名
40代	46名	4名
50代	73名	10名
60代	51名	3名
70代以上	16名	3名

#### 種目

- ・陸上
- ・水泳
- ・野球
- ・バレーボール
- ・サッカー
- ・テニス
- ・剣道
- ・吹奏楽 など

#### 資格有無

- 次のいずれかの登録要件を満たす必要あり。
- 1.日本スポーツ協会の競技別指導者資格等の資格を所持
  - 2.部活動指導員の経験
  - 3.教員免許授与及び指導経験
  - 4.指導・活動経験があり、県が認める研修を受講

#### 地域クラブ活動指導者研修講座の実施

- ・対象:地域クラブの指導者として活動を希望する方
- ・目的:地域クラブ活動の指導者として必要な知識の習得
- ・工夫した点:本講座を日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の更新研修の対象に位置づけ

#### 指導者研修の参加実績（令和6年度は2回開催）

- ・開催日時①：7月 7日（日）10：00～16：30
- ・参加人数①：116人
- ・開催日時②：11月 23日（土・祝）10：00～16：30
- ・参加人数②：113人

#### 指導者研修の内容

- 部活動の地域移行、かながわ地域クラブ活動指導者データベースについて
- スポーツ現場におけるハラスメント防止動画の視聴
- 地域クラブ活動における指導について
- 学校教育活動としての部活動の意義と指導者の責任について
- 生徒のモチベーション向上を目的とした指導法について

#### 受講者の声

- 「ハラスメントの考え方や指導法を常にアップデートしていきたい」
- 「内容が充実しており、今後も開催してほしい」

#### 指導者研修の様子



#### 今後の方針

講座をオンライン化し、受講者増加を図る。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
**ウ：関係団体・分野との連携強化**  
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



## 取組内容

### ●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

#### 取組事項

1. 目的  
 地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・学校運動部活動等において、安全・安心で基礎的なスポーツ指導や運営にあたる者を養成する。
  2. 主催 桐蔭横浜大学
  3. 連携協力：神奈川県、公益財団法人日本スポーツ協会(JSPO)
  4. カリキュラムプログラム①  
 スタートアップ 20 時間(オンデマンド講座 12 時間+対面講座 8 時間)  
 プログラム②  
 JSPO 公認スポーツコーチングリーダー資格 25 時間(オンデマンド講座 12 時間+対面講座 8 時間+自主学習 5 時間)  
 プログラム③  
 履修証明交付 15 時間(内容は別途調整中)
  5. 実施方法  
 本講座は、①オンライン講座、②対面講座、③レポート提出で構成され、部分受講は認めず、受講期間内にすべての課程を修了する必要がある。
- ① オンライン講座：自宅学習及び本学オンライン学習システム上での動画教材を用いた学習及びチェックテストを行う。
  - ② 対面講座：オンライン講座を踏まえ、対面講座を受講する。
  - ③ レポート提出：①および②での学習内容を踏まえ、課題レポートを作成し、提出する

#### 取組の成果

- 県と連携し、桐蔭横浜大学が地域部活動指導者資格認定プログラムを開催し、研修講座を行ってもらったので、多くの大学生や、地域の指導者がプログラムに参加し、「かながわ地域クラブ活動指導者データベース」へ任意で登録をしてもらうことに繋がった。

2025年3月実施

### 地域部活動指導者資格認定プログラム

主催：桐蔭横浜大学  
 後援：神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市(申請中)  
 連携協力：公益財団法人日本スポーツ協会(JSPO)

各プログラム  
 定員 50 名程度!!

●地域部活動指導者資格認定プログラムとは  
 桐蔭横浜大学では、公立中学校における部活動の地域移行に係る指導者の養成を目的に、地域部活動指導者資格認定プログラム(以下「本プログラム」)を実施します。本プログラムは、2023年10月に策定された「公立中学校における部活動の地域移行に係る神奈川県の方針」を踏まえ、地域に貢献する桐蔭横浜大学が自治体等との連携により実施するものです。桐蔭横浜大学が実施するオンデマンド講座および対面講座を受講し、定められた合格点を超えた場合に資格認定されます。



#### ●プログラム概要



※プログラム2受講には、プログラム1を修了する必要があります。1日でプログラム2まで受講はできません。

●開講日(プログラム1・2共通)  
 オンデマンド講座：3/1(土)～3/21(金) ※期間中に6コマ(12時間)視聴をしてください。  
 対面講座：3/22(土) 8:30～17:00 @桐蔭横浜大学

#### ●受講料

プログラム1 スタートアップ：5,000円(税込)  
 プログラム1+2 JSPO公認スポーツコーチングリーダー資格：15,000円(税込)

※プログラム1+2申込者はマイページ作成の上、別途JSPOに対し受講管理料とテキスト代が必要です。

[JSPOマイページ説明]



#### ●お申込み

以下のフォームよりお申込みください。  
 URL：<https://forms.gle/ieiLrhD7Hrq26vMw6>  
 ※Googleアカウントを事前に準備ください



#### お問い合わせ先

桐蔭横浜大学 地域部活動指導者資格認定プログラム事務局  
 メールアドレス：[ti-ki@toin.ac.jp](mailto:ti-ki@toin.ac.jp)  
 TEL:045-972-5881

本プログラムについての詳細は本学HPをご確認ください

URL：<https://toin.ac.jp/univ/education/chiki-bukatsudou/>



# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
**エ：面的・広域的な取組**

オ：内容の充実  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



## 取組内容

### ●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

#### 県地域クラブ活動コーディネーターによる市町村訪問時の聞き取り結果を踏まえ「足柄上地区」にて取組を推進

#### 広域連携に係る担当者打合せ会議の開催

- ・第1回 令和6年10月3日 地域移行の広域連携に係る地区担当者打合せ（第1回）（会場：県西足柄上合同庁舎）  
 <参加者：各市町関係課・関係部署の担当者、県教育委員会担当者 等>
- ・第2回 令和6年10月17日 第2回県地域移行連絡会地区別分科会（会場：県立総合教育センター）  
 <参加者：各市町関係課・関係部署の担当者、総合型地域SC代表者、市スポーツ協会代表者、学校職員、県教育委員会担当者 等>
- ・第3回 令和7年2月26日 第3回県地域移行連絡会地区別分科会（会場：県立総合教育センター）  
 <参加者：各市町関係課・関係部署の担当者、総合型地域SC代表者、市スポーツ協会代表者、学校職員、県教育委員会担当者 等>
- ・第4回 令和7年3月13日 地域移行の広域連携に係る地区担当者打合せ（第2回）（会場：県西足柄上合同庁舎）  
 <参加者：各市町関係課・関係部署の担当者、県教育委員会担当者 等>

#### 主な課題

- ①移動（自転車、保護者送迎等）
- ②大会運営
- ③受け皿となるクラブ、事務業務やシステムを取りまとめる団体等の不足

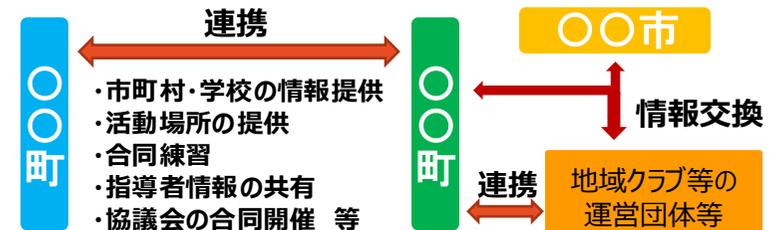
#### 課題に対する主な意見

- ①公共の交通機関や自転車での移動可能な活動場所の確保。安全対策を前提に自転車使用など柔軟な対応。
- ②競技人数の少ない競技を中心に進めていく。
- ③業務を細分化し、外部団体等に担ってもらえるものを精査する。（すべて任せるわけではない）

まずは...

#### 「スモールスタート」

- ニーズを把握し、実施可能な種目から進める（まずは1種目から）
- 進捗状況や事業に対する見方・考え方が似ているところから、部分的に連携を進める 等



### 総括・成果の評価・今後に向けて

#### ●総括

- 県として、教育委員会、首長部局が連携し、情報共有や役割分担をしながら地域移行へ向けた取組を進めることができた。
- 県地域クラブ活動コーディネーターの市町村訪問や県部活動地域移行連絡会等の情報収集・発信の場を設けることで、市町村との連携をすることができ、特にコーディネーターの丁寧な支援が実り、来年度新たに実証事業へ手を挙げる予定の市町村が増えた。
- 一方で、各市町村の取組の進捗状況は様々であり、県として市町村の取組をどのように支援していくかは、引き続き検討すべき課題の一つと考えられる。
- 令和5年度より「かながわ地域クラブ指導者データベース」を設置し、指導者登録数は増えている一方で、地区や種目に偏りがみられる。特に、文化部の指導者登録はまだ少ない傾向にある。
- 協議会は設置し検討はしていても、兼業兼職についての整備や活動場所として学校施設を利用する際の整備など、実証事業を行う先行自治体に比べて、地域移行への整備が進めるのが難しい市町村も多い。

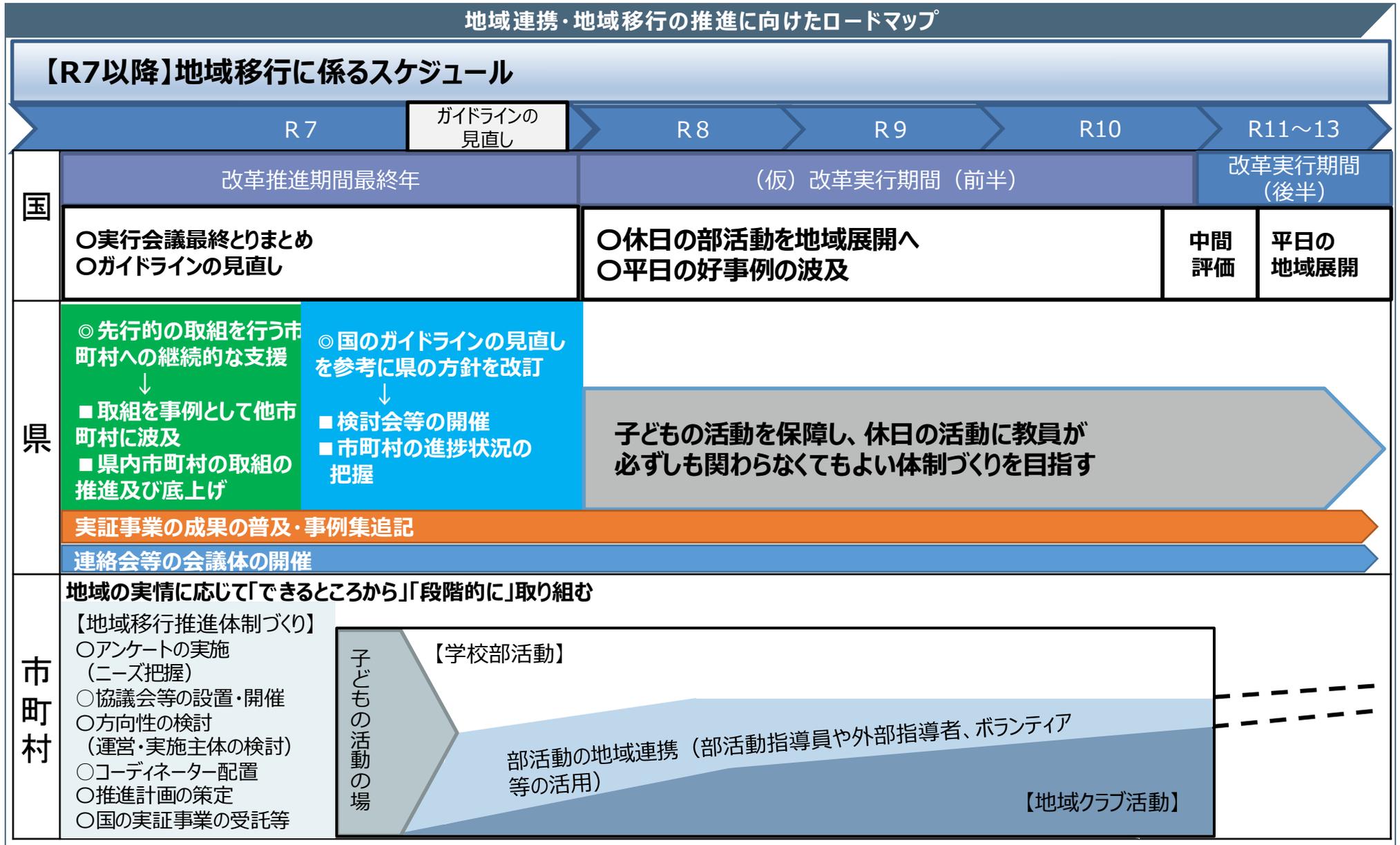
#### ●成果の評価

- 関係者との連絡調整・指導助言等の体制について、県地域クラブ活動コーディネーターによる情報収集や市町村との相談活動等が効果的であった。
- 指導者の質の保障・量の確保について、かながわ地域クラブ指導者データベースや指導者研修会の実施により、指導者の量的・質的な確保が一定の成果がみられる一方、地域や種目による偏り等については課題が見られる。
- 関係団体・分野との連携強化について、県部活動地域移行連絡会における情報発信や広域連携に向けた情報共有等、取組が継続かつ進められている。
- 県部活動地域移行アンケートからは、情報共有の肯定的な意見も多くあった。担当者間で悩みの共有ができたことや先行事例の継続的な紹介を望む声など。課題は、財政的な支援や、最終的なゴールを示してほしいなどがあった。

#### ●今後に向けて

- 地域移行の推進のため、国の動きを注視しながら、関係部局で連携を図りながら推進期間最終年を進めつつ、次年度以降に向けての取組を検討していく。
- 今後、国のガイドライン改定を踏まえて、県の方針の改訂にむけた検討会を開催し、方針改訂に向けて準備していく。
- 県地域クラブ活動コーディネーターと市町村のコーディネーターとの連携や、クラブアドバイザーとの情報共有を定期的に行い、総合型地域スポーツクラブの地域移行に向けた取組支援や市町村の取組を継続支援していく。

# 3. 今後の方向性



令和6年度

# 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

## 神奈川県 藤沢市

自治体名：神奈川県 藤沢市

担当課名：藤沢市教育委員会 教育指導課

電話番号：0466-50-3559

# 1.自治体の基本情報

## 基本情報

面積	69.56 km <sup>2</sup>
人口	443,788 人
公立中学校数	19 校
公立中学校生徒数	10,768 人
部活動数	284 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市の中学校部活動の加入率は長きにわたり、8割を超える程高い率を維持しており、多くの生徒が部活動を通し、一人ひとりの個性を伸ばし、豊かな心を培うための活動をしている。

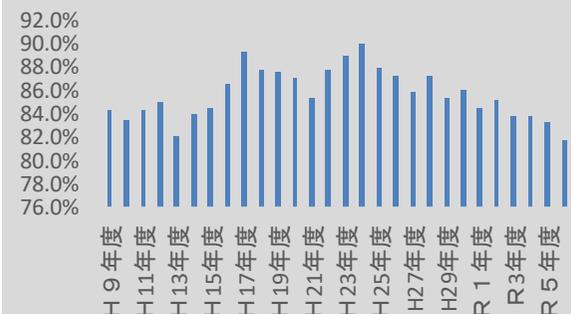
一方で、部活動を支える「教員の負担」については長年にわたる大きな課題である。

令和6年度9月に、本市の部活動の課題とニーズをつかむことを目的とした「部活動アンケート」を実施したところ、今後、生徒数が減少し、校内の部活動の設置数や部員数が減少してい

くことが考えられるが、その場合、部活動はどのような実施形態が望ましいと考えるかという質問に対して約7割の教員が「地域に移行したクラブ活動として行う」という回答であった。

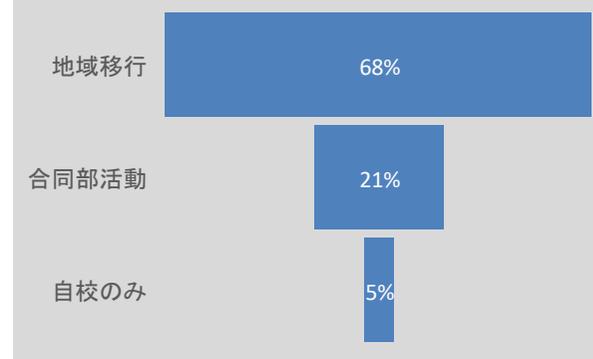
部活動の地域連携・地域移行については、部活動指導員をはじめとする地域指導者のより一層の活用とともに、モデル実証の実施から得られた知見を活かし、教員と地域指導者の十分な連携を意識した取組を行う必要がある。

部活動加入率推移



出典：令和6年度藤沢地区運動部調査

望ましい部活動の実施形態について

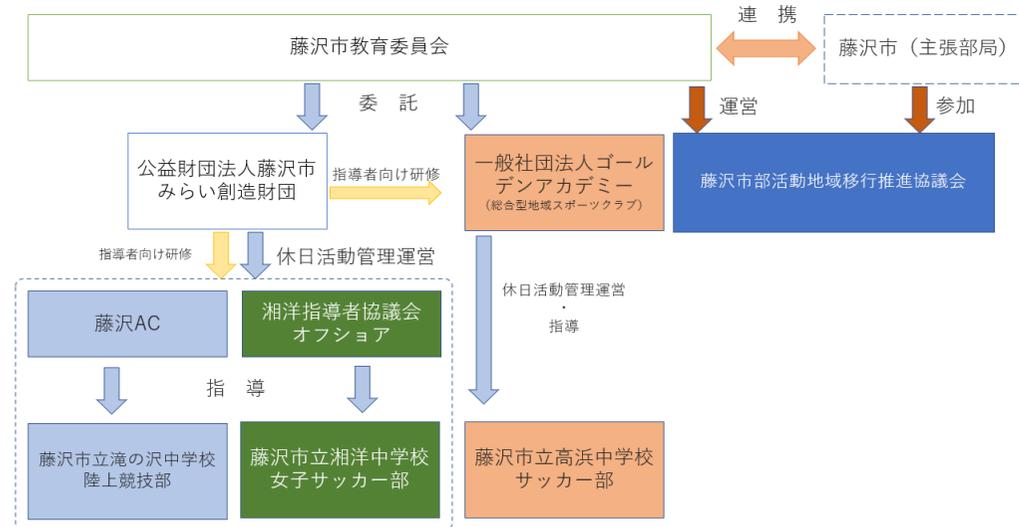


出典：令和6年度「部活動アンケート」

## 2.実証内容と成果

### 運営体制・役割

#### ●運営体制図（市区町村における推進体制図）



#### ●行政組織内での役割分担

◎**教育委員会**（教育総務課、学務保健課、教育指導課、学校施設課）  
部活動地域移行の運営事務局  
・協議会の運営  
・モデル実証の検討 等

◎**首長部局**（生涯学習部 生涯学習総務課、文化芸術課、スポーツ推進課）  
教育委員会各課と共に部活動地域移行の運営事務局を担う。

### 年間の事業スケジュール

令和6年4月	モデル実証の委託契約
8月	第1回藤沢市部活動地域移行推進協議会
11月	第2回藤沢市部活動地域移行推進協議会
令和7年2月	第3回藤沢市部活動地域移行推進協議会

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の運営実績

#### ①全体に関すること

中学校数	3校	実施した地域クラブ総数	3クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		3クラブ（3部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	12人	全体の運営スタッフ数	4人

#### ②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
藤沢AC	任意団体	陸上競技	月2回	9:00～12:00	1年生10人 2年生9人 3年生18人	24/4/1～25/3/31	藤沢市立滝の沢中学校	4人	4人 (内、兼務4人)	なし	中体連：部活動
湘洋指導者協議会 オフショア	一般社団法人	女子サッカー	月4回	13:00～16:00	1年生11人 2年生11人 3年生5人	24/5/1～25/3/31	藤沢市立湘洋中学校	6人	4人 (内、兼務4人)	なし	その他：地域クラブ
ゴールデンアカデミー	一般社団法人	男子サッカー	月4回／週1回	日曜日午前	1年生10人 2年生9人 3年生4人	24/4/1～25/3/31	藤沢市立高浜中学校	2人	2人 (内、兼務2人)	なし	中体連：部活動

#### ③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 市内複数校での合同練習会 2024年9月16日（滝の沢中学校陸上部、第一中学校陸上部）

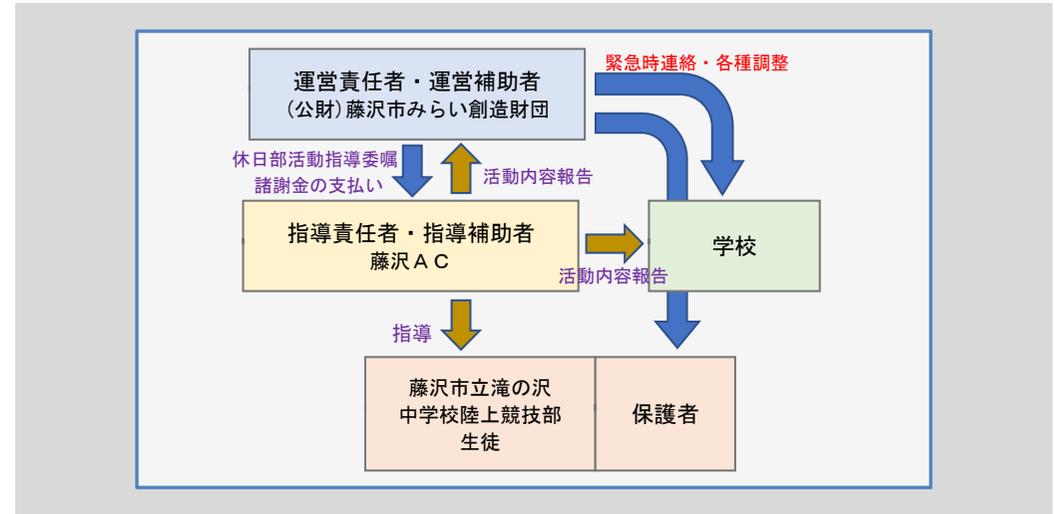
## 2.実証内容と成果

### 主な取組例

#### ●藤沢AC 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上競技
運営団体名	藤沢AC
期間と日数	24年4月1日～25年3月31日 月2回程度
指導者の主な属性	社会人
活動場所	滝の沢中学校グラウンド
主な移動手段	交通用具
1人あたりの参加会費等(年額)	なし
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

#### ●運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



#### ●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 運営責任者 1名  
役割：研修の企画・実施、指導者団体と学校との連絡調整、生徒・指導者の保険加入、事故発生時の保護者・学校への対応等を行う。
- 運営補助者 3名  
役割：運営責任者不在時において運営責任者の役割を担うとともに、運営責任者の業務補助を行う。
- 指導者責任者 1名  
役割：部活指導の計画立案と実行、生徒に対する指導内容についての責任を担うとともに、日常の活動について運営責任者・部活顧問・保護者との連絡調整を行う。
- 指導補助者 3名  
役割：部活指導補助を行うとともに、責任者不在時における関係者との連絡調整を行う。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

**イ：指導者の質の保障・量の確保**

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

### 取組内容

#### ●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

##### 指導者研修の内容

指導者の質の確保として、地域指導者基礎研修を実施した。

研修の内容としては、1.安全管理の内容として①応急手当の流れ、②AEDを使った心肺蘇生法、③止血法・外傷(打撲・ねん挫)に対する応急手当(PRICE処置)、④熱中症の予防と対処法、⑤事故防止のための基本的な留意事項など、2.コンプライアンスの内容として①コンプライアンス順守・体罰・ハラスメントの防止、②安心・安全な部活動について、③事例紹介など、を中心に実施した。

研修の講師として、本事業の運営団体である(公財)藤沢市みらい創造財団のプール統括マネージャーであり応急手当の有資格者で経験豊富な職員が安全管理の研修を担当し、コンプライアンスについては市内大学における講義などで経験豊富な職員が担当した。

##### 指導者研修の参加実績

- ・開催日： 2024年12月 1日(日) 15:00～18:30
- ・開催回数： 1回
- ・参加人数： 5人
- ・実施場所： 藤沢市秩父宮記念体育館(藤沢市鵜沼東8-2)  
安全管理研修会場(1階 多目的室)  
コンプライアンス研修会場(2階 研修室)

##### 受講者の声

安全管理については、繰り返し経験・実践することが重要と感じたという感想や、ハラスメントについては、参加できなかった他の指導者とも共有したいという感想があった。また、指導者は県などの他団体が主催する研修・講習会などに参加されている方も多く、ハラスメントなどは、他団体の講習での内容と重複するものが多かったとの意見もあった。

なお、指導者の方々は社会人であるため、時間的に参加が難しいという声も多く聞かれた。

基礎研修以外に関心のある・学んでみたい内容としては、昨年実施時の意見から引き続き、「スポーツに関する栄養指導・健康指導」や「スポーツ現場におけるメンタルコーチング」など、成長期であり且つ精神的にデリケートな世代である中学生の部活指導に携わる方々の意識の高さを感じられた。

##### 今後の課題と対応方針

指導経験の豊富な受講者からは、さらに発展的な研修として、昨年来、栄養やメンタルについて学ぶ機会を希望する声がありました。受講者アンケートを有効なものにするためにも、ぜひ実現したいものです。当面、今年度は、本事業の中で実施するものではありませんが、3月15日に(公財)藤沢市みらい創造財団が開催する「ジュニアのためのスポーツ栄養講座」や、来年度6月28日に藤沢市体育協会が開催する「スポーツ心理学から考える上手くなるためのコツ」に関し、受講希望を募り参加枠を確保することで、受講者のニーズに応えたいと考えています。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
**エ：面的・広域的な取組**

オ：内容の充実  
カ：参加費用負担の支援等  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

##### 取組事項

滝の沢中学校陸上競技部及び湘洋中学校女子サッカー部においては、広域的な取組として他校の部員と合同練習することや普段の練習からリーグ戦参加に至るまで近隣校生徒が参加しやすい環境づくりに尽力した。

##### 各自治体の役割

実際に拠点校を訪問し、活動状況の把握に努めるとともに、教員をはじめ、生徒や保護者の声を幅広く聞くためにアンケート実施した。さらに結果を分析し地域人材確保につなげる取組を検討した。

##### 移動手段

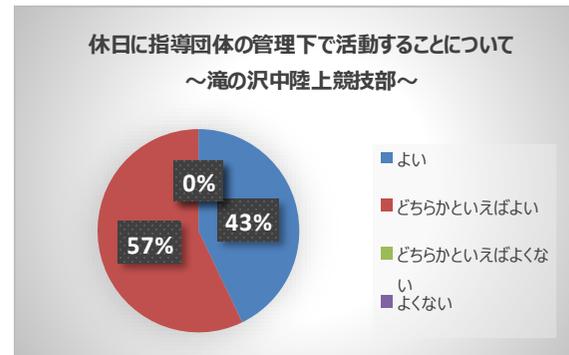
公共交通機関等を使用し、各自で現地まで移動したり、同一部活動からの参加が多い場合には、指導者が引率している場合もあった。

##### 事務局運営の方法

(公財) みらい創造財団に業務委託し、財団が総括コーディネーターとして運営を行った。  
教育委員会事務局は、その都度活動状況について報告を受けた。

##### 取組の成果

地域クラブとしての活動が行われることで、顧問の負担軽減や地域との繋がりが強化される点が好まれている。多くの生徒が専門的な指導を受けられることや、地域のクラブ活動を通じて他校の生徒と交流できることが有益と感じている意見が多い。



##### 今後の課題と対応方針

活動場所や施設の不足、怪我への対応等指導者の管理体制の改善が求められるため、地域クラブとの関わりについて学校側と密に連携し安定したシステムを構築する必要がある。

### 総括・成果の評価・今後に向けて

#### ●総括

クラブ指導者の導入・地域クラブ活動への移行は、顧問の負担軽減と生徒の技術向上に貢献している一方で、休日のみ移行だと指導の一貫性や運営体制の課題も明らかになっている。

また、地域クラブ活動に移行するにあたり、今まで部活動が担ってきた人間教育的側面への保護者からの期待や、普段の学校生活も見ている教員と休日の部活動のみを指導するクラブ指導者の連携・共通認識の難しさもある。

今後は、指導者間の連携強化や運営面での安定性、管理体制の強化が重要な課題となる。さらに、財政的な課題に対しても、持続可能な運営のために協力体制や支援の充実が求められる。指導者謝礼や保険加入などの運営費用が自治体の補助に依存している現状では、規模拡大には限界があり、地域クラブとして持続的に運営するためには受益者負担や関係機関の理解が重要となる。

#### ●成果の評価

##### 1.専門的な指導の効果

外部指導者による専門的な技術指導が生徒の技術向上に寄与しており、多くの生徒と保護者から高く評価されている。特に、外部指導者が持ち込む新たな視点や異なる戦術が有益だとされている。

##### 2.顧問の負担軽減

外部指導者の活躍により、顧問の負担が軽減され、教員が家庭の事情等でより柔軟に休養を取れる環境が整った点は支持されている。

##### 3.地域クラブ活動の利点

地域クラブとの連携により、他校との交流や専門的な指導を受ける機会が増え、生徒にとっての活動の幅が広がった。また、地域クラブ活動が学校と地域のつながりを強化する点も評価されている。

#### ●課題

##### 1.平日・休日の指導内容の一貫性

クラブ指導者・顧問間の指導方針や役割分担の統一が不足しており、時には指導内容がわかりにくいとの生徒の意見もある。また、そのことが起因でクラブ指導者・顧問間で事務的にも精神的にも負担が増している事例もある。(団体競技)

##### 2.指導者の頻度や数の不足

指導者の数が不足しており、指導の質や継続性が確保されない懸念が示されている。

##### 3.運営の財政面と持続可能性

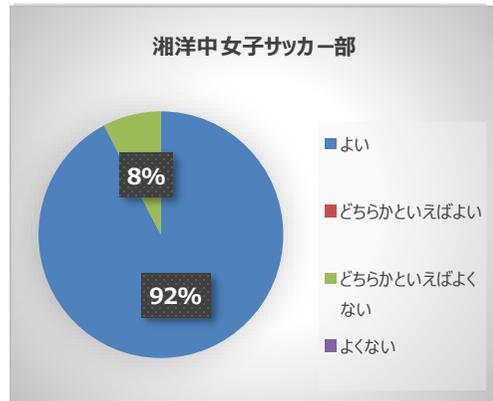
クラブ指導者・財団からは、地域クラブ活動の運営には、資金や人員の確保が難しいとの意見があり、特にボランティアベースでの活動には限界があると指摘されている。

## アンケート結果・参加者の声

### ●アンケート結果

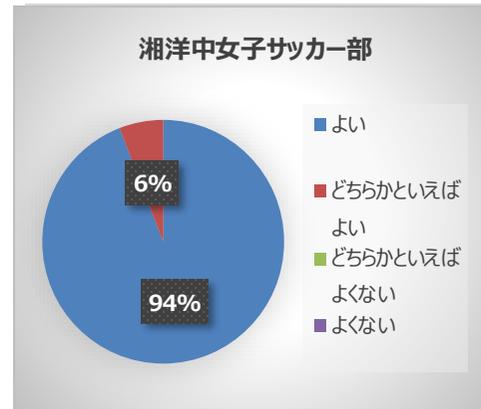
【保護者】

外部指導者の指導について



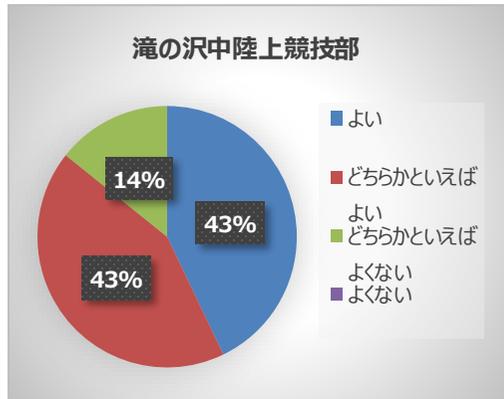
【生徒】

外部指導者の指導について



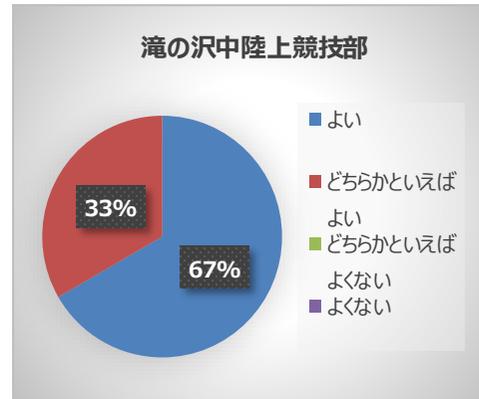
【保護者】

外部指導者の指導について



【生徒】

外部指導者の指導について



### ●参加者の声

#### 高浜中学校サッカー部（保護者）

- ・専門性の高い指導者がいる。
- ・顧問の先生の負担が減る。
- ・いろいろな人と関わり指導してもらえたら学びを増やせると思う。

#### 湘洋中学校女子サッカー部（生徒）

- ・経験者の人がいてくれると頼れる、安心する。
- ・学べることが多く、役に立っている。
- ・わかりやすく教えてくれる。
- ・専門的な意見をより多く聞くことができる。

#### 滝の沢中学校陸上競技部（保護者）

- ・専門分野の指導を受けることができる。
- ・地域の方と関わる機会が減る中、外部クラブを知るきっかけになっている。
- ・他校の生徒との交流が練習方法など良い刺激になる。

#### 滝の沢中学校陸上競技部（生徒）

- ・専門のコーチに指導してもらえる。
- ・コーチがたくさんいればいろんな視点でアドバイスをもらえる。
- ・教え方が上手で、しっかり生徒と向き合ってくれるから。

## 2.実証内容と成果

### 参考資料（活動写真）



【陸上競技：地域指導者による基礎練習の様子】



【陸上競技：地域指導者による指導の様子】



【女子サッカー：地域指導者による技術練習の様子】



【サッカー：地域指導者による技術指導の様子】

## 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年

令和5年～

「藤沢市部活動地域移行準備連絡会」設置

受け皿団体や指導者の選定、活動学校の選定

生徒、保護者への説明

地域クラブ活動の開始

●ステークホルダー  
 ・藤沢市・藤沢市教育委員会  
 ・藤沢市立学校長等教員  
 ・藤沢市スポーツ事業関係者  
 ・藤沢市文化芸術事業関係者

●経過  
 文部科学省が示す「部活動地域移行」について、藤沢市における在り方を構築するため、11月から検討を開始した。

●実施内容  
 ・藤沢市の特性を活かした部活動地域移行とは  
 ・令和5年度部活動地域移行委託事業構想案等について協議を行った。  
 様々なお立場からご意見をいただきました。  
 今後も積極的に取り入れていきたい。

●ステークホルダー  
 ・藤沢市教育委員会  
 ・受け皿団体  
 ・学校長

●経過  
 受け皿となりうる団体として、総合型地域スポーツクラブが想定されたことから、市内の総合型地域スポーツクラブへ検証参加の意向調査を実施し、受け皿となる意思を確認した。

●実施内容  
 ・総合型地域スポーツクラブへアンケート調査を実施  
 ・活動場所となる学校との調整

●実施にあたって生じた課題  
 実際に受け皿となることのできる団体及び学校が少なく、指導者確保や学校の選定が困難であった

●ステークホルダー  
 ・藤沢市教育委員会・学校長  
 ・生徒・保護者  
 ・管理運営団体・指導団体

●経過  
 市教委・学校長・受け皿団体で令和5年度の活動に向け、生徒や保護者が安心して参加できるような説明になるか検討。

●実施内容  
 ・活動学校ごとに保護者説明会を実施  
 ・保護者から懸念点や質問について回答。市教委からだけでなく、受け皿団体から直接説明をすることで、保護者の安心につながった。

●ステークホルダー  
 ・藤沢市教育委員会・学校長  
 ・生徒・保護者  
 ・管理運営団体・指導団体

●経過  
 市教委・管理運営団体・指導団体・学校長等と調整を行い、保険加入が終了次第活動を開始。  
 新入生保護者向けには、管理運営団体と指導団体が学校長と調整の上、改めて説明を実施。

●実施内容  
 ・活動学校ごとに保護者説明会を実施  
 ・保護者から懸念点や質問について回答

# 3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ			
	令和7年度	令和8年度	令和9年度以降
藤沢市教育委員会	学校部活動の縮減・教員の働き方改革の促進		
	モデル検証の継続		
※モデル検証実施の必要性を含めて検討していくことから、令和8年度以降は未定			
藤 沢 市	具体的な方向性等を教育委員会と市長部局が協力をしながら検討		
		※令和8年度以降具体的な時期は今後調整のため未定	

令和6年度

# 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

## 神奈川県 秦野市

自治体名：神奈川県秦野市

担当課名：教育指導課

電話番号：0463-84-2786

# 1.自治体の基本情報

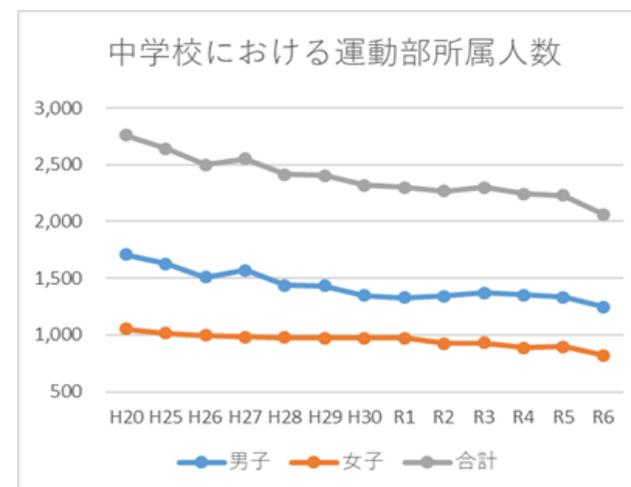
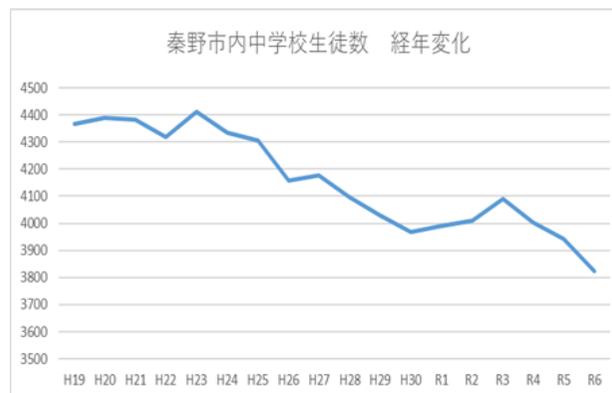
## 基本情報

面積	103.76 km <sup>2</sup>
人口	160,903 人
公立中学校数	9 校
公立中学校生徒数	3,825 人
部活動数(運動部)	78 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市は神奈川県の中核に位置し、人口約16万人、児童生徒数約1万1千人、小学校13校・中学校9校、表丹沢の水と緑に育まれた中核都市です。児童生徒数は、昭和60年22,290人をピークに、年々減少しており、令和6年度の中学校における生徒数は3,825人で、15年前の平成20年からみても約500人が減少するなど、緩やかにしながら少子化が進んでいます。令和3年度から令和7年度を計画期間とする「教育振興基本計画」においては、「全ての子どもたちの可能性を引き出す新たな学びのスタイルにより、持続可能な社会を作り出す力を育む」という基本方針を掲げ、国が部活動の地域移行を打ち出す前後から、中学校部活動についても「新たな学びのスタイル」の

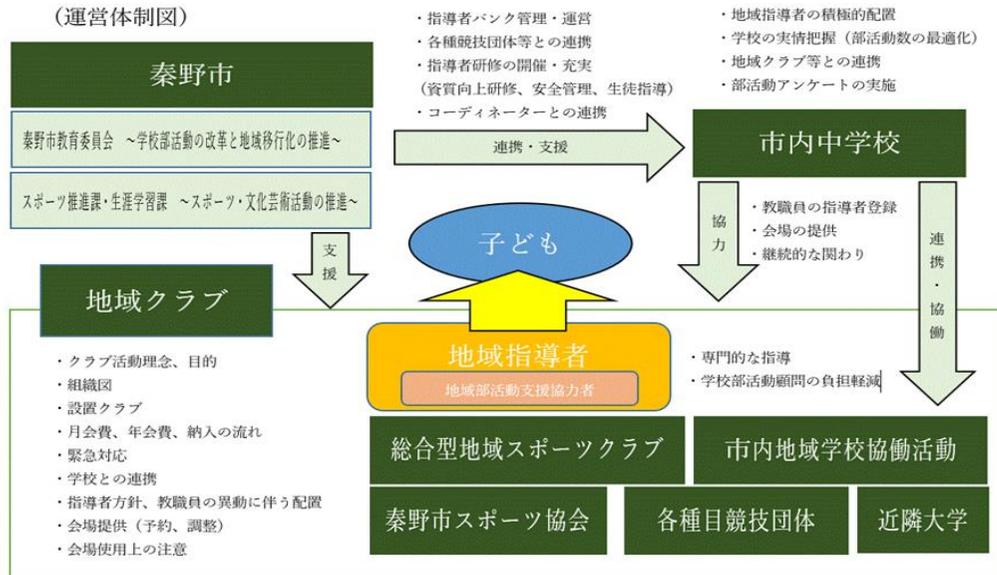
一つとして改革の方向性を打ち出し、個別施策として「部活動スタートアップ事業」に取り組んできました。そして、「教えるから学ぶ」という変革と歩調を合わせた「新たなスポーツ・文化芸術活動の創造」という部活動改革を未来予想図として描きながら、「大学や民間企業等との連携・協働」、「スポーツ協会や各競技団体との連携・協働」、「地域学校協働活動の活用」という3つのスキームを「秦野スタイル」と具体的に位置づけ、これまで学校部活動が担ってきた教育的意義を継承しながら、生徒が主体的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会の確保を目指しています。



# 2.実証内容と成果

## 運営体制・役割

### ●運営体制図（市区町村における推進体制図：スポーツ、文化同じ）



### ●行政組織内での役割分担

#### ◎教育委員会

- 各中学校及び市中学校体育連盟にむけて段階的な地域クラブ化へのヒアリングの実施
- 生徒及び保護者、関係団体への共通理解を図るための説明会等の実施
- 指導を希望する教職員また地域指導者の確保を目指す人材バンクの管理、運営

#### ◎首長部局（スポーツ推進課・生涯学習課・行政経営課）

- 市スポーツ協会との連携、調整
- 各種競技団体（連盟等）との連絡、調整
- 近隣大学及び総合型地域スポーツクラブとの連携、調整

## 年間の事業スケジュール

- 令和6年4月
  - 校長会で説明
  - 市中学校体育連盟へ周知
  - 市公共施設指定管理者と打ち合わせ
  - 拠点校にて実証事業の開始
  - 拠点校にて説明会を実施
- 令和6年6月
  - 総合型地域スポーツクラブ(FIKA)と協議
  - 地域部活動（地域クラブ）活動支援協力者の追加登録
- 令和6年7月
  - 市中学校体育連盟と協議
  - 拠点校でのアンケート実施
- 令和6年9月
  - 総合型地域スポーツクラブ(FIKA)の活動視察及び協議
- 令和6年10月
  - 第1回中学校部活動検討会の実施
- 令和6年12月
  - 公共施設指定管理者との打ち合わせ
- 令和7年1月
  - 総合型地域スポーツクラブ(FIKA)の活動視察及び協議
- 令和7年3月
  - 第2回中学校部活動検討会の実施

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の運営実績

#### ①全体に関すること

中学校数	9校	実施した地域クラブ総数	7クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		7クラブ（部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	54人	全体の運営スタッフ数	7人

#### ②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
西中学校バレーボールクラブ	教育指導課	バレーボール	月1回程度	半日	1年生…5名 2年生…5名 3年生…5名	年間	西中学校	2人	1人	月・年会費なし	大会については各中学校ごとで参加する
大根中学校体操クラブ	教育指導課	体操	週1回程度	半日	1年生…5名 2年生…5名 3年生…5名	年間	東海大学大根中学校	8人	1人	月・年会費なし	大会については中学校で参加する
市内中学校剣道クラブ	教育指導課	剣道	月1回程度	半日	1年生…20名 2年生…30名 3年生…5名	年間	市総合体育館	10人	1人	月・年会費なし	大会については各中学校ごとで参加する
東中学校クラブ	教育指導課	バレーボール バスケットボール 軟式野球 ソフトテニス	月1回程度	半日	1年生…37名 2年生…31名 3年生…14名	年間	東中学校	16人	1人	月・年会費なし	大会については各中学校ごとで参加する

#### ③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 横浜ビー・コルセアーズと連携した市内中学校バスケットボール部での活動会を実施。
- 市スポーツ協会・日本体育大学陸上競技と連携した市内中学校陸上競技部での活動を実施。

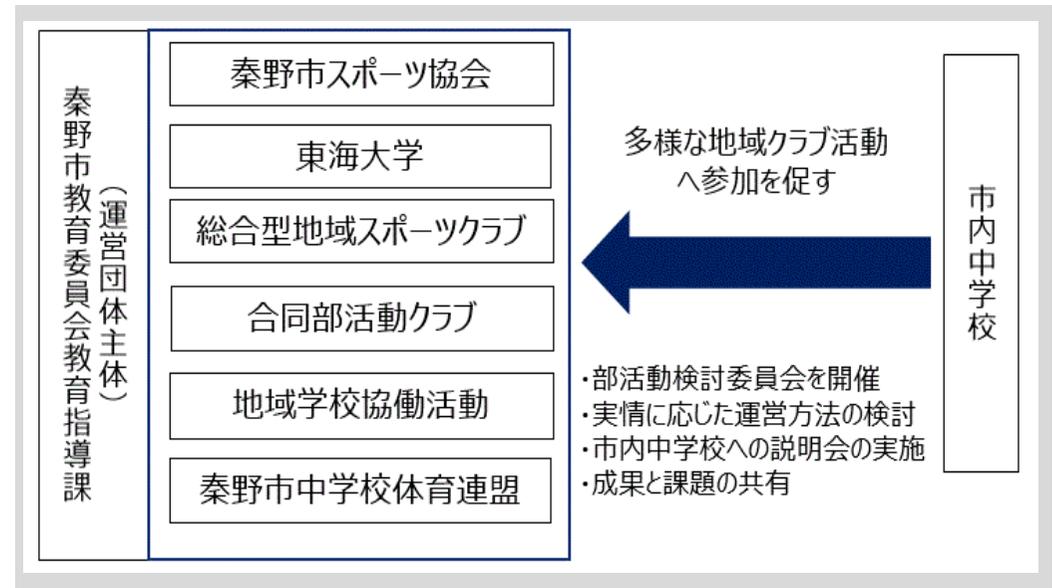
## 2.実証内容と成果

### 主な取組例

#### ● 秦野市地域スポーツ・芸術活動クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バレーボール・体操・剣道・ソフトテニス等
運営団体名	秦野市教育委員会
期間と日数	剣道：5月25日～年度末まで 週1回程度（など） 体操：5月11日～年度まで 週1回程度
指導者の主な属性	剣道：剣道連盟所属有段者・各学校の教職員（希望者のみ） 体操：東海大学体操部員・大根中学校の教職員（希望者のみ）
活動場所	剣道：メタックスはだの体育館 体操：東海大学・大根中学校
主な移動手段	保護者送迎。徒歩 など
1人あたりの参加会費等（年額）	なし * 保険等は受益者負担
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年 （年齢によっては、1,200円/年）

#### ● 運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



#### ● 指導者や運営スタッフなどの役割分担等

##### ● 統括責任者

役割：全体的な活動状況の把握などを担当者とともに確認する。

##### ● 指導者 54名

役割：生徒への専門的な知識や技能を伝達する。

##### ● 運営補助者 9名

役割：指導者の稼働状況表や実績などと運営団体と協働して確認する。

（主に学校関係者）

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

### 取組内容

#### ●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

##### 取組事項

- ・関係団体と運営団体・実施主体である教育委員会との連絡調整等に関する取組
- ・中学校部活動検討委員会を開き、好事例を市内に周知する取組
- ・市独自の3つのスキームを周知していく取組
- ・責任の主体と明確化に関する取組
- ・関係者の理解促進への取組
- ・学校と協働した部活動改革への取組

##### 取組の成果

- ・市スポーツ協会をはじめ各種競技団体との打ち合わせをもつことで、関係者との顔の見える関係が構築された。
- ・以前から一部の学校部活動を地域の活動として行っていた学校では、今年度はさらに校内のいくつかの学校部活動を段階的に地域移行・地域展開することができた。

##### コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・南が丘中学校では、総合型地域スポーツクラブの代表者をコーディネーターとして位置づけ、週に2回程度学校での打ち合わせ等を設けることにより、教職員への理解を深めることができたことが、大きな成果となった。
- ・東中学校では、月に2回程度の地域クラブ活動を行っていく上で、学校施設の鍵の開錠や管理について、コーディネーターが対応する取組を試みた。
- ・地域クラブ活動を段階的に行っていく上での課題として、学校施設を優先的に使用できる体制整備を図るために、休日の学校施設の使用状況の確認をコーディネーターの業務に位置付けることを試みた。

##### 今後の課題と対応方針

- ・すでに学校部活動を地域のクラブ活動として位置付けて隔週で行っていた東中学校では、今年度は実施主体をより地域に密着させるために、管理職が中心となって地域学校協働活動の中に位置付けられるよう取り組んだ。
- ・南が丘中学校では校内のいくつかの学校部活動を段階的に地域に移行していこうと進めており、平日の学校部活動をまとめていく取組も進めた。
- ・中学校部活動検討会では、学校内で「部活動改革」や「休日の学校部活動の段階的な地域移行」への教職員の意識改革が進まなければ、今ある学校部活動の在り方が変化していくことは難しいことが課題としてあげられた。今後も、教職員に対して継続的かつ丁寧な説明を行うことで、子どもたちのスポーツ・文化芸術活動の機会を確保するための地域部活動（地域クラブ活動）への取組が推進していくと考える。そのためにも、生徒及び保護者向けの説明会と合わせて、教職員への意見聴取会等を取組として位置付けることが大切である。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

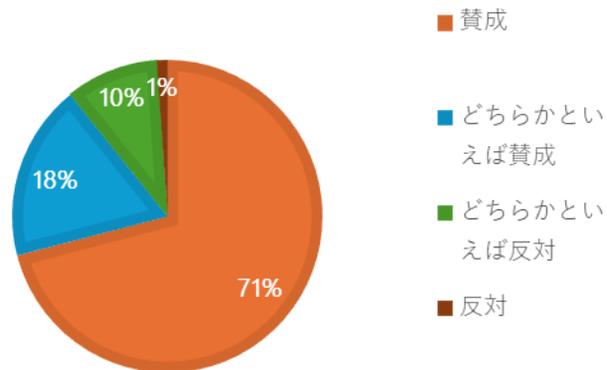
#### 取組の成果

休日の部活動を段階的に地域に移行・展開していく中で、地域クラブ活動として取り組んだ生徒及び保護者にアンケートを実施したところ、「休日の学校部活動に代わるスポーツ活動では、学校の先生以外の指導者が中心となって技術や知識を教えてくれている機会について、今後もこの形は良いと思うか」という質問に対しては、生徒の約89%、保護者の約95%が「賛成」「やや賛成」と答えた。

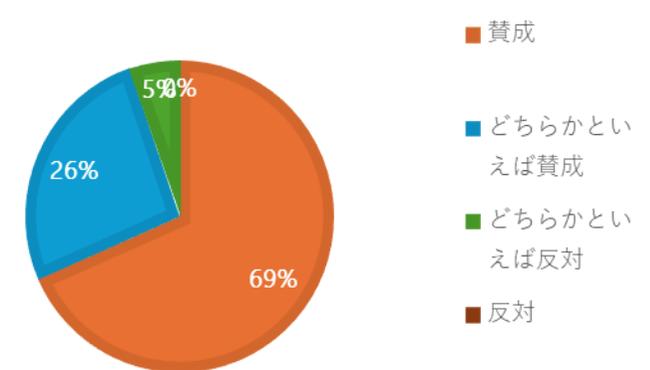
一方で、「反対」「やや反対」の中には、「通っている学校の先生以外に教わるのが不安だから」「活動場所が自宅から遠くなるのが不安だから」「他校の生徒との交流が不安だから」といった意見もあった。

こうした調査結果から、今の学校部活動をそのまま地域に移行するような急激な変化には、生徒及び保護者の不安感が募る一方であると判断し、今後も月に一度、地域クラブと位置付けて、休日の学校部活動を段階的に地域移行・地域展開していく方向性を学校と協働して考えていく。

【生徒】休日の学校部活動に代わるスポーツ活動で、学校の先生以外の指導者が中心となって技術や知識を教えてくれている機会について、今後もこの形は良いと思いますか。



【保護者】休日の学校部活動に代わるスポーツ活動で、学校の先生以外の指導者が中心となって技術や知識を教えてくれている機会について、今後もこの形は良いと思いますか。



## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

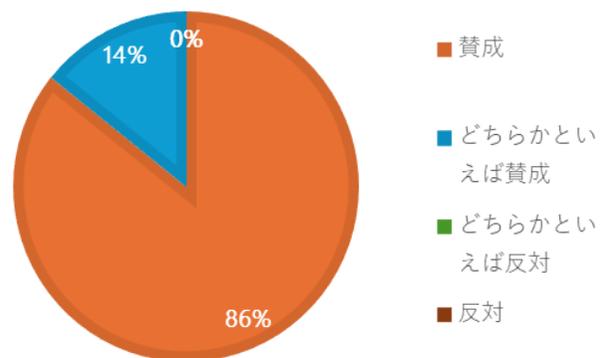
#### 取組の成果

休日の部活動を段階的に地域に移行・展開していく中で、地域クラブ活動として取り組んだ教職員及び地域クラブ指導者にアンケートを実施したところ、「休日の学校部活動に代わるスポーツ活動では、学校の先生以外の指導者が中心となって技術や知識を教えている機会について、今後もこの形は良いと思うか」という質問に対しては、「反対」「やや反対」という意見はなかった。

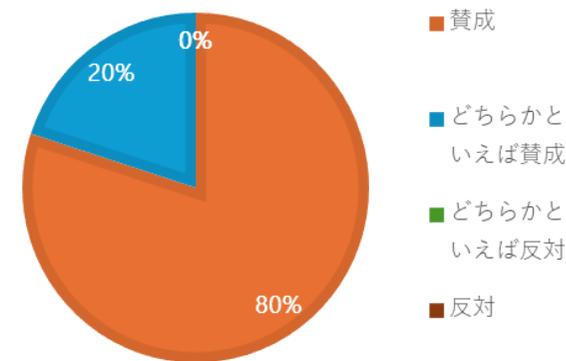
「賛成」「やや賛成」の意見の中には、「生徒が指導者から専門的な知識や技能を教えられるから」が教職員で92.9%、指導者で93.3%、次に「先生（顧問教職員）が休める環境づくりになるから」が教職員で57.1%、指導者で60.0%、「学校外の交流ができるから（自校では人数が足りないから）」が教職員で28.6%、指導者で20.0%となった。

こうした結果から、学校部活動の地域移行・地域展開することは、教職員の働き方改革も面からも有効ではあるものの、教職員や指導者が一番に子どものことを考えていることが窺えたことから、専門的な知識や技能を有する指導者の数と質の確保も重要であると考えられる。

【教職員】休日の学校部活動に代わるスポーツ活動で、学校の先生以外の指導者が中心となって技術や知識を教えている機会について、今後もこの形は良いと思いますか。



【指導者】休日の学校部活動に代わるスポーツ活動で、学校の先生以外の指導者が中心となって技術や知識を教えている機会について、今後もこの形は良いと思いますか。



# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
**イ：指導者の質の保障・量の確保**  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



## 取組内容

### ●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

#### 取組事項

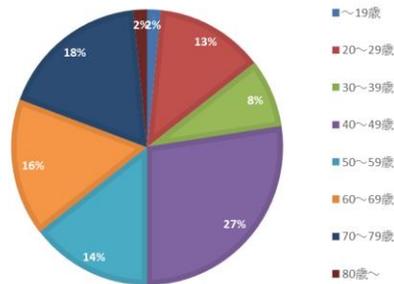
- ・指導者の発掘から、マッチング、配置に関する取組
- ・指導者への研修及び資格等に関する取組

#### 人材バンクの人数

地域クラブ活動 指導者（運動）54名  
 指導者人材バンク 57名（協力者登録）  
 ＊文化部も含む

#### 人材バンクの年齢構成

指導者人材バンクの年齢構成(文化部も含む)



#### 登録者属性

- ・学生
- ・会社員（自営業）
- ・元教職員

※人材バンクの年齢構成としては  
 40～49歳が一番多く27%、次に70～79歳が  
 18%、次に60～69歳が16%となっている。

#### 種目

- ・陸上競技部 ・サッカー部 ・卓球部
- ・軟式野球部 ・バスケットボール部
- ・ソフトテニス部 ・バレーボール部
- ・柔道部 ・剣道部 ・体操部
- ・吹奏楽部 ・美術部（文化部）

#### 資格有無

指導者を有資格者に限ることとせず、まずは募集をかけて、その後、研修等を行っていく。

#### 取組の成果

- ・運営団体として人材バンクを、地域や各種目競技団体等により広く周知できた。また、マッチングから配置までの過程をより早くするために、令和6年度も学校と協働して取り組んだ「地域部活動支援協力者申請書」を活用した配置方法を継続して行うことで、「承諾書」「委嘱状」を不要とした指導者の配置が可能となっている。
- ・「秦野市地域部活動（地域クラブ活動）指導ハンドブック」の内容等の見直しを継続的に行いながら、改訂版として第4版を作成した。これをもとに運営団体が研修を行うことで、指導者の質の保証を継続的に図ることができた。今後も、市スポーツ協会や近隣大学と地域クラブ活動の指導者に特化した資格について協議、検討を行っていく。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

**イ：指導者の質の保障・量の確保**

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

### 取組内容

#### ●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

##### 指導者研修の内容

- ・学校教育としての部活動
- (1)部活動の教育的意義・部活動の学校教育上の位置づけ
- (2)地域部活動（地域クラブ活動）支援協力者の役割
- (3)地域部活動（地域クラブ活動）の計画的な活動のために
- (4)地域部活動（地域クラブ活動）支援協力者の身分上の位置づけ
- (5)地域部活動（地域クラブ活動）支援協力者の業務
- (6)地域部活動（地域クラブ活動）の指導に当たって(引継ぎ用紙)
- (7)指導する（コーチング）とは何か（指導者（コーチ）の役割）
- (8)指導者（コーチ）のモラルと理念・仕事
- (9)コーチング方法とコーチング技法
- (10)心理学と倫理観
- (11)保護者との連絡・連携・調整
- (12)事故防止と事故への対応について
- (13)医療について（一時時救命処置・熱中症・傷害）
- (14)保険制度
- (15)私費会計の適正な管理
- (16)体罰防止
- (17)わいせつ・セクハラ行為の防止
- (18)合理的かつ効果的な部活動のため部活動の今後について

##### 受講者の声

- ・研修会とともに意見交換というディスカッション形式の2部構成で、様々な事例報告や多くの意見を聞いて、大変、参考になりました。（地域クラブ指導者）
- ・これまで部活動のことは聞いて学んできたことが多いため、教職員にとってこうした研修会は大変ありがたいと感じた。（管理職）
- ・地域移行・展開は決して学校が切り離されていくわけではないことを知り、子どもたちのために何ができるかを考える機会となりました（教職員）
- ・秦野市が県下でパイロット的存在になれるように、教職員一人ひとりが自分事として捉えていく必要があると感じました。（教職員）
- ・今後、地域として活動をしていく中で、大会運営がどうなるのかなど、具体的な働き方改革がより聞ければ有り難かったです。（教職員）

##### 指導者研修の参加実績

- ・開催日：令和6年4月20日（土）、12月21日（土）他
- ・開催回数：2回（活動の視察を共に活動場所にて開催）
- ・参加人数：延べ35人

##### 今後の課題と対応方針

- ・研修会の充実による指導者の数と質の確保
- ・「秦野市地域部活動（地域クラブ活動）ハンドブック」の改訂と普及

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
**ウ：関係団体・分野との連携強化**  
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



## 取組内容

### ●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

#### 取組事項

- ・近隣大学等の連携に関する取組
- ・総合型地域スポーツクラブとの連携に関する取組

#### 取組の成果

近隣大学である東海大学はもちろんスポーツに特化した大学等とも積極的に連携して、休日の学校部活動にかわる地域クラブ活動がより身近になるように、大学生等を指導者に派遣してもらうことや、大学施設を活動の場として提供してもらうことで異年齢集団との交流を図れるようにした。それにより大根中体操部以外にもソフトテニス部に東海大学の学生が関わる機会が図れたことや、市スポーツ協会を通じて、日本体育大学陸上競技部との連携事業も展開することができた。

総合型地域スポーツクラブが主として実施しているスポーツ活動を、休日の複数の学校部活動に合わせて取り組むことで、生徒が様々なスポーツを体験できる環境づくりを行うとともに、中学校世代において一つの競技種目だけを行うのではなく、シーズンスポーツの観点も視野に入れながらクラブ活動を行えた。特に本市の総合型地域スポーツクラブはスポーツ鬼ごっこに特化しており、多種多様な巧みな動きを取り入れるような活動に力を入れられた。

・また、地域力を生かした日立サンディーバのソフトボール教室の開催や、横浜ビー・コルセアーズのバスケットボールクリニックを休日の学校部活動に代わる活動として積極的に事業展開することができたことから、運動・スポーツ好きな生徒を増やし、子どもたちが生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成を定着することを目指すことができた。

### 秦野版 文化・スポーツクラブ(案)

総合型地域スポーツクラブの視点から考えられる、部活動の地域移行化について、将来的なビジョンなどをまとめました。

生涯スポーツ ↔ 競技スポーツ

↓ 行き来が自由 ↓

文化活動

**【ライフスタイルに多様な選択肢を】**

FIKA(フィーカ) 総合型クラブ 代表 飯田

**ビジョン**

- 子ども達の成長の場  
→ 教科指導だけでは得られない体験を地域で!
- 地域社会が交流する場  
→ 地域で子ども達を育む環境づくり
- 誰もが輝ける場  
→ 多様な生徒の居場所であり活躍の場

**ポイント**

- 持続可能性(ヒト・モノ・カネ・情報)  
→ できる人がやるだけではなく、“仕組み”をつくる
- 地域性がある  
→ 地域が活躍をしてくるクラブ(地域の子を地域で見守る)
- クラブ活動が生活の一部  
→ 将来的にクラブが地域の産業の一つになる

**人と街をつくる**

### 地域の文化・スポーツクラブの拠点として

FIKA総合型クラブで培ったノウハウ・コンテンツの提供

- 各種スポーツプログラム&チーム活動<sup>(1)</sup>  
→ 鬼ごっこ、サッカー、バレー、バスケット、トレーニング etc
- 公式戦出場と自主大会の主催  
→ 自主大会は各種スポーツの経験値レギュレーションを作成し多くの試合の中で多くの出場機会が生まれる仕組み作り
- 0-16以降の活躍の幅を広げる<sup>(2)</sup>  
→ 競技スポーツ環境へ移行した際に、勝ち残る為の土台作り

11

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
**エ：面的・広域的な取組**

オ：内容の充実  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

##### 取組事項

- ・合同部活動の枠組みを活用した市内中学校剣道クラブを、月に1回程度、市公共施設であるはだのメタックス体育館で実施した。
- ・横浜ビー・コルセアーズと連携した市内中学校バスケットボールクラブを、はだのメタックス体育館で2回、実施した。
- ・市スポーツ協会・日本体育大学の陸上競技と連携した活動を市陸上競技場で1回、実施した。

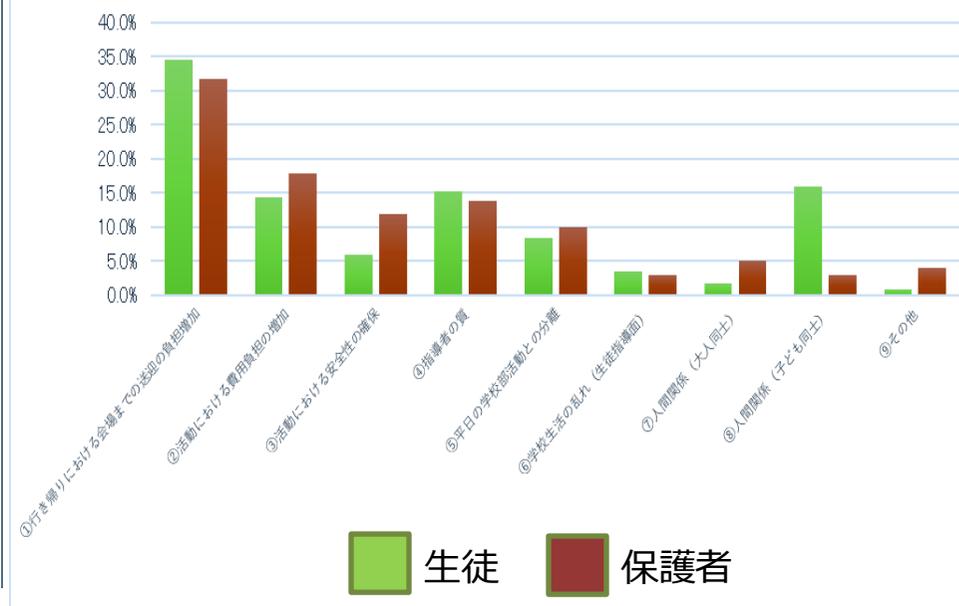
##### 各自治体の役割

各中学校では部員数の減少により十分な活動ができない学校部活動が一定数出てきていることから、学校部活動の精選とともに、新たなスポーツ活動の創造として、合同部活動（練習会）の枠組みを活用した、集合型地域クラブ活動を進めていくことが大切であるとする。その際には首長部局と連携しながら、市スポーツ協会または各種競技団体との調整が必須である。

##### 取組の成果

実施した全ての活動においても、アンケートでは90%以上の生徒が「また参加したい（どちらかと言えばを含む）」と肯定的に答えており、活動内容の充実を図れるものだった。一方で、市内9校が一か所に集まることへの活動場所への送迎についての負担感が生徒・保護者にあることが、「休日の学校部活動を段階的に地域移行していく上での不安なこと」というアンケートの自由記述から読み取れた。（右上グラフ）

休日の学校部活動を段階的に地域移行していく上で、不安なことは何ですか。



##### 今後の課題と対応方針

学校部活動は地域の中学校で行っていたというメリットは、今後の地域移行・地域展開を考えていく上で重要な課題であるとする。先行自治体の好事例を参考にしながら、移動手段等についても検討会等で協議を図っていくことが重要である。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

**オ：内容の充実**  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 オ：内容の充実①

#### 取組事項 ・大根中学校体操クラブ活動

#### 活動の詳細

参加人数	10 人程度	指導者数	東海大学生 7 人 教職員 2 人（希望した教職員）
属性	大根中学校 体操部に所属している生徒の休日の学校部活動を大根中体操クラブと位置付けて、東海大学体操部に所属している学生が指導していく。		
具体的な内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週に 1 回程度、休日の学校部活動を大根中学校または東海大学にて、体操クラブとして実施している。</li> <li>・ウォーミングアップから基礎練習、発展練習まで東海大学体操部の学生が中心となって男女別れて活動している。</li> <li>・東海大学の体育館で行う場合は、より専門的な器具等が揃っていることにより、生徒たちの活動が充実している。</li> <li>・東海大学の体操部に所属する学生から専門的な知識や技能を学べる環境づくりとなっている。</li> </ul>		
子どもの声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東海大学の体操部の指導者に教えていただくのは本当にありがたい。</li> <li>・東海大学は大根中学校から徒歩 5 分程度なので、通うのに負担感がない。</li> <li>・毎週、東海大学を使用させてもらえればなお嬉しいが、時々、大根中学校で活動を行うことで、実際に自分自身が中学校の器具だとのぐらいの技ができるのかを確認できるので良い。</li> <li>・東海大学の学生さんの負担になっていないか心配になるときはありますが、実際に指導してくれる学生さんとは年齢も近いので、とても親近感がわく。</li> <li>・東海大学の学生さんの中でも、先週にどういったことをやったのか引き継いでくれているので、安心して活動ができる。</li> </ul>		
関係者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身も生徒に何をどう教えれば良いのか考えることができるので、ありがたい機会だと感じている。（東海大学 学生）</li> <li>・もう少し計画的に指導してあげたいと感じることもあり、学校と連携を深めていきたい。（東海大学 学生）</li> <li>・生徒が怪我をしないことを一番に考えているので、生徒が物足りないと感じていないか心配なときはある。（東海大学 学生）</li> <li>・学生自身のコミュニケーション能力の向上や、地域貢献にもなっているので、継続して行いたい事業である。（東海大学 講師）</li> <li>・学校として指導者が継続的にいるわけではないので、本当に助かっている（大根中学校 管理職）</li> <li>・自分自身がこれまで関わったことのない競技なので、大変ありがたい。（大根中学校 教職員）</li> </ul>		

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

**オ：内容の充実**  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 オ：内容の充実②

##### 取組事項 ・市内中学校剣道クラブ活動

#### 活動の詳細

参加人数	30～60 人程度	指導者数	市剣道連盟有段者 8人 教職員 2人（希望した教職員）
属性	市内中学校剣道部に所属している生徒（市剣道連盟としては、部活動に加入していない生徒の受け入れも可）に対して休日の学校部活動を剣道クラブと位置付けて、市剣道連盟に所属している有段者が指導していく。		
具体的な内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月に1回程度、休日の学校部活動を市の公共体育館（メタックスはだの体育館）で、剣道クラブとして実施している。</li> <li>・初心者と有段者を2から3グループに分けて、作法・礼法から基礎練習、試合形式練習まで剣道連盟の有段者である指導者が一定の方向性を共有しながら別れて活動している。</li> <li>・各校部員が数名の中学校も多いため、多くの生徒が集まって全体として活動することで充実した取組となっている。</li> <li>・市剣道連盟有段者から専門的な知識や技能を学べる環境づくりとなっている。</li> </ul>		
子どもの声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校では有段者がいないため、こうした機会が他校との交流が持てることは貴重な機会です。</li> <li>・学校の先生が経験者ではないので、このクラブ活動では細かい部分を教えてもらえて嬉しい。</li> <li>・一緒に活動している他校の中学生と公式戦で戦うことになってしまうと少し気まずい。</li> <li>・剣道は中学校から始めても、十分にうまくなり、楽しめることが、クラブ活動で教えていただけて良かったです。</li> <li>・学校部活動と地域クラブ活動のちょうどいい形だと思うので、これからもどちらかにならないようにしてほしいです。</li> </ul>		
関係者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの未来のために、学校部活動との連携を図りながら、毎年、より良い形を模索しながら、誰にとっても負担になりすぎないような取組を目指して、出来ることをやっていきたい（市剣道連盟 会長）</li> <li>・中学校によって学校で習っていることがこんなにも違うのかと、こうした地域クラブ活動で初めて知ることができたので、市全体の剣道の普及育成の意味でも大変、意味のある活動だと感じている（市剣道連盟 指導者）</li> <li>・教職員の休日に休めるという当たり前の環境づくりに大変、感謝している。市剣道連盟のような連盟が各種増え、学校と協働して取組んでいくことが大きな意味を持つと思う。（中学校 教職員）</li> </ul>		

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

**オ：内容の充実**  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 オ：内容の充実③

**取組事項** ・横浜ビー・コルセアーズと連携したバスケットボールクラブ活動

#### 活動の詳細

参加人数	100人程度（4分割）	指導者数	横浜ビー・コルセアーズ所属の指導者 3人 *人数に応じて4人
属性	市内中学校バスケットボール部に所属している生徒（横浜ビー・コルセアーズとしては、部活動に加入していない生徒の受け入れも可）に対して、休日の学校部活動をバスケットボールクリニックと位置付けて、横浜ビー・コルセアーズのアンダーカテゴリーの指導者が指導していく。		
具体的な内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年に1回程度、休日の学校部活動を市の公共体育館（メタックスはだの体育館）で、バスケットボールクリニックとして実施する。</li> <li>・基礎練習、発展練習、試合形式練習まで指導者が小グループに1人ずつ関わり活動している。</li> <li>・様々な中学校の生徒が集まって活動することで、充実した取組となっている。</li> <li>・横浜ビー・コルセアーズ所属の指導者から、より専門的な知識や技能を学べる環境づくりとなっている。</li> </ul>		
子供の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校では習っていない技能を教えてもらえると共に、クリニックのため中学校の所属にありながら活動で出来たので、良かった。</li> <li>・どういうスキルなのか、実際に見せてもらったので、とても分かりやすかった。</li> <li>・他校の生徒と交流することが出来たので、バスケットボールに対する意欲がさらに沸いた。</li> <li>・月に一回程度、実施してほしいが、年会費等がかかるとなると、親に迷惑がかかる。</li> <li>・横浜・ビーコルセアーズを応援しようと思った。</li> </ul>		
関係者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休日の学校部活動の新たな形の一つとして、今回のようなクリニック形式が主流となることも考えられるため、競技団体としてこれからも様々な形を模索していきたい。（横浜ビー・コルセアーズ指導者）</li> <li>・一人でも二人でも、バスケットボールや横浜ビー・コルセアーズに興味関心を持ってくれることになれば、自分自身が今日、関わったことには大きな意味があると思う。（横浜ビー・コルセアーズ指導者）</li> <li>・バスケットボール部はこれまでも教職員がなかなか休みを取れない部活動であることから、こうした取組は大変、有効であると思う。（中学校管理職）</li> </ul>		

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

**オ：内容の充実**  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 オ：内容の充実④

**取組事項** ・総合型地域スポーツクラブと連携した南が丘クラブ活動

#### 活動の詳細

参加人数	10～20人程度	指導者数	総合型地域スポーツクラブFIKA 1人 ゲスト指導者 2人程度（実施種目による）
属性	南が丘中学校に在籍している生徒に対して、休日の学校部活動に代わるスポーツ活動を総合型地域スポーツクラブの指導者が指導していく。（南が丘小学校の児童も対象内である）		
具体的な内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月に1・2回程度、南が丘中学校の体育館で、様々なスポーツ活動として実施している。</li> <li>・一定の期間バスケットボールやバレーボールなどを行い、初心者や経験者を問わずにスポーツ活動を行っている。</li> <li>・また参加するメンバーは幼児から大人までと様々な世代間交流となっており、同じ「バスケットボール」でも用具や会場を工夫しながら活動している。</li> <li>・指導者はスポーツ鬼ごっこ協会の指導者や、東海大学の部活動所属の学生をゲストに呼び、誰もが楽しく、安全安心に活動できる充実した取組となっている。</li> </ul>		
子供の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく活動ができる。</li> <li>・すごく疲れるという活動でないのが、自分に合っていて良いと思う。</li> <li>・いろいろなスポーツを、小学生や大人と一緒に活動できるのが楽しい。</li> </ul>		
関係者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来は子どもに関わる仕事に就きたいと考えているため、良い経験になる。（東海大学 学生 *ゲスト指導者）</li> <li>・休日の学校部活動に代わる活動の一つとしての位置づけであるので、生徒及び保護者が選べる環境づくりになっていると考える。（南が丘中学校 教職員）</li> <li>・これまで学校部活動は一種目を三年間ずっと同世代のメンバーで続けることが美徳として語られ、これまで教育的意義と合わせて受け継がれてきたが、一定の期間ごとに活動する種目を変えたり、異年齢集団で取り組み、自分にあった頻度や強度で行うという新しいスポーツ活動は、これからの選択肢になりうると考える（総合型地域スポーツクラブ 指導者）</li> </ul>		

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
カ：参加費用負担の支援等  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 オ：内容の充実⑤

##### 取組の成果

モデル中学校として実施している東中学校で、令和6年6月に地域クラブ活動に参加した中学生約129人を対象としたアンケートの結果、回答者の71%が地域クラブ活動に「満足している」という結果となった。

一方で、令和7年2月に1・2年生に101人に実施した同じアンケートでは、回答者の65%が地域クラブ活動に満足しているという結果となった。アンケートの中で、「満足していない」という回答の中には「学校の先生以外とコミュニケーションをとるのが難しい」「そもそも活動における人数が少ない」といった意見があったことから、参加する生徒たちの心理的な不安の軽減と共に、実施する種目の精選を学校部活動と協働しておこなっていくことが重要であると考えている。

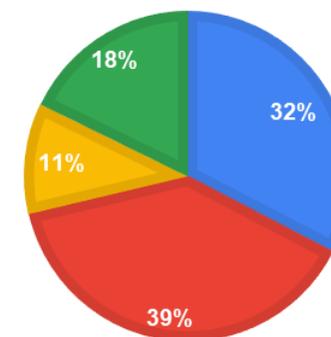
##### 今後の課題と対応方針

モデル中学校として実施している東中学校では、今年から月に2回ほどの地域クラブ活動を行う取組を進めており、生徒の中には満足しているという好意的な意見もある中で、「学校部活動」と「地域クラブ活動」との差に戸惑っている生徒が見受けられたことはアンケートからもわかった。

今後はこうした定期的なアンケートを続けていくとともに、地域クラブ活動の指導者に対する研修を重ねながら、地域クラブ活動の意義について協議を図り、生徒及び保護者に周知していく。

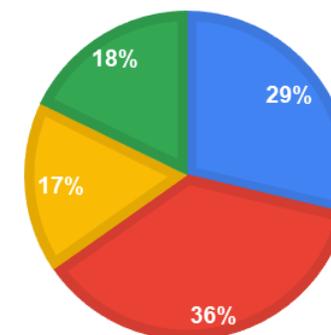
#### 【R6.6】（生徒）地域クラブ活動の充実度

■満足している ■どちらかといえば満足している  
■どちらかといえば満足していない ■満足していない



#### 【R7.2】（生徒）地域クラブ活動の充実度

■満足している ■どちらかといえば満足している  
■どちらかといえば満足していない ■満足していない



## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

**オ：内容の充実**  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 オ：内容の充実⑥

##### 取組の成果

モデル中学校として実施している東中学校で、令和6年6月と令和7年2月に、地域クラブ活動に参加した中学生を対象としたアンケートを実施した結果、「教職員以外の地域の方が地域クラブの指導者に携わること」について、令和6年6月で83%、令和7年2月で87%で、「良いことである」と捉えている結果となった。

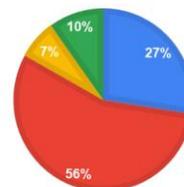
また、モデル中学校である東中学校教職員の平均年間時間外在校等時間は、すべての活動を学校部活動として取り組んでいた令和元年度は52時間53分だったのに対して、令和5年度は42時間9分となり、10時間44分の削減が見込まれた。

さらに月別の時間外在校等時間が45時間以上となった教職員の構成率が、令和元年度6月は79.2%だったのに対して、令和6年6月は47.8%と、31.4%の減少となった。

休日の学校部活動を段階的に地域移行・地域展開していくことで、教職員が休日・平日ともに学校部活動に従事する時間が減少したことに伴い、教職員の時間外在校等時間の減少にもつながっていると考えている。

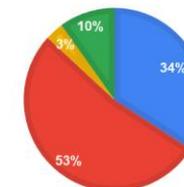
【R6.6】教職員以外の地域の方が地域クラブの指導者に携わることについて

■大変良い ■良い ■あまり良くない ■良くない



【R7.2】教職員以外の地域の方が地域クラブの指導者に携わることについて

■大変良い ■良い ■あまり良くない ■良くない



#### 平均年間時間外在校等時間

令和元年度	令和5年度	差
52時間53分	42時間09分	10時間44分

#### 月別時間外在校等時間（月45時間以上の構成率）

令和元年6月	令和6年6月	差
79.2%	47.8%	31.4%

##### 今後の課題と対応方針

モデル中学校として実施している東中学校での取組をさらに推進させると共に、好事例として周知を図っていく。休日の地域クラブ活動への指導者としての参加を希望する教職員の従事時間について、学校と連携しながら継続的かつ定点的に把握に努めていく。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
**カ：参加費用負担の支援等**  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

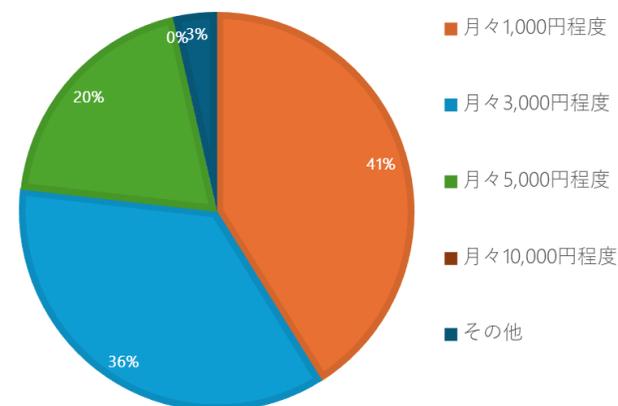
##### 取組の成果

地域スポーツクラブ活動に参加した中学生の保護者を対象としたアンケートの結果、回答者の41%が「月の受益者負担は1,000円程度」、36%が「月の受益者負担は3,000円程度」、20%が「月の受益者負担は5,000円」と回答している。これまで多くの学校部活動はそのほとんどが無料で実施されてきた中で、少しずつ保護者の受益者負担という考え方が浸透してきている結果となった。

こうした結果については、中学校の教育活動として多くの成果を上げてきた学校部活動が現在、大きな転換期にあるということを生徒及び保護者に周知してきたからだと言える。特にPTA連絡協議会等では、学校部活動の教育的意義を踏まえ、部活動改革が急激な変化ではなく、新しいスポーツ・文化・芸術活動の創造であるということを丁寧に伝えてきた成果であると考えられる。

これからも休日の学校部活動の段階的な地域移行・地域展開が生徒や保護者はもとより教職員にも混乱や不安が生じないように、共通理解の場を大切にするとともに広報活動にも積極的に取り組んでいく。特に生徒及び保護者、市民への説明の際には、今の部活動をそのまま一度に地域移行・地域展開するのではなく、学校に関わる全ての人々がこの改革を自分事として捉えられるよう、学校部活動及び地域クラブ活動に関わる全ての人々が知恵を出し合うというビジョンも大切にしていきたい。

休日のスポーツ活動にかかる活動費（指導者への謝金・備品代・保険代等）について、月の受益者負担はどの程度が望ましいか。



#### 今後の課題と対応方針

令和6年度までは、参加費用負担はなかったが、令和7年度からは保険料を参加者に負担してもらい地域移行・地域展開を進めていく。

学校部活動に代わる地域クラブ活動の運営等に必要コストを検証しながら収支構造について、困窮者世帯への支援も含めて、「中学校部活動検討会」等で学校のみならず関係各所の方々、首長部局の支援担当課や市スポーツ協会及び各競技種目団体、有識者、保護者代表から意見をもらいながら、検討していく。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
 カ：参加費用負担の支援等  
**キ：学校施設の活用等**  
**ク：その他の取組**



## 取組内容

### ●取組項目名 キ：学校施設の活用等

#### 取組事項

- ・学校施設の効果的な活用や管理に関する取組
- ・会場費等にかかる受益者負担軽減に関する取組

#### 取組の成果

- ・地域クラブとして学校施設を効果的に活用できるよう、学校長の判断のもと、学校施設は優先的に利用できるようにした。

#### 今後の課題と対応方針

- ・持続可能な地域クラブ活動が学校施設を優先的かつ継続的に活用できるように、学校と協働しながら利用ルールの策定を検討していく。
- ・学校施設の鍵については、学校が柔軟に対応することにより、地域指導者が責任をもって会場を使用できるよう図っていく。

### ●取組項目名 ク：その他の取組

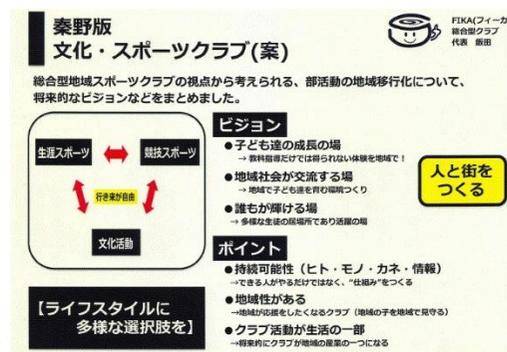
#### 取組事項

- ・関係団体への理解を図る取組
- ・総合型地域スポーツクラブと連携した取組

#### 取組の成果

- ・市スポーツ協会加盟の各競技団体や市PTA連絡協議会での説明、さらには総合型地域スポーツクラブとの協議を行うことで、市だけではなく国全体としてのスケジュール間を共有することと、市の実情に応じた方向性を共有することができた。
- ・総合型地域スポーツクラブとのイメージを共有することができた。

### 総合型地域スポーツクラブとのイメージ図



#### 今後の課題と対応方針

- ・休日の学校部活動に代わる地域クラブ活動を新たな受け皿として創造する。

### 一貫指導に関する部活動顧問との連携

参考番号  日

活動引継ぎ用紙  学校

【平日の活動における指導】

練習メニュー

休日の活動への引継事項

連携者サイン

【休日の活動における指導】

練習メニュー

休日の活動への引継事項

連携者サイン

【引継ぎ用紙の回し方(例)】  
 学校顧問→部長→地域部活動(地域クラブ活動) 支援協力者→部長→学校顧問  
 (週末または休日移動).....(土曜部・日曜部・夜間).....(週末または休日移動)  
 ※部費は無償、ファイル等に添じた快報で回していく。  
 ※引継ぎしたい内容は、用紙に記入できない事項等があれば、電話連絡等で直接、指導者が連絡を取り合っていく。(報告、連絡、相談)

### 総括・成果の評価・今後に向けて

#### ●総括

部活動は、これまで教職員の献身的な熱量により運営され、生徒は勝利を目指して厳しい練習にも耐え、生徒自身の自己肯定感向上はもとより、問題行動の抑制など生徒指導面においても大きな役割を担ってきた。

一方で、勝利至上主義という指摘や体罰等も大きな課題となってきた中、令和の日本型学校教育では、あらゆる場面で、これまでの「子どもたちを管理する」から「子どもたちが主体」へという意識になり、授業も「教える」から「学ぶ」へと改善が求められる黎明期に入っていると判断している。

折しも開催された2024年パリオリンピック・パラリンピック競技大会では、若い選手が大会を通じて楽しみ、主体的に競技に取り組む姿勢と発信力の高さに驚かされるとともに、スポーツの世界では、一足早く変革が進んでいるようにも感じた。

こうした社会の変革が進む中、本市では、休日の学校部活動の地域移行・地域展開をきっかけとして、持続可能な形を模索しながら、令和の日本型学校教育における部活動となるよう新たなスポーツ・文化芸術活動の創造を目指していく。

#### ●成果の評価

本市では令和3年度から令和7年度を計画期間とする「教育振興基本計画」においては、「全ての子どもたちの可能性を引き出す新たな学びのスタイルにより、持続可能な社会を作り出す力を育む」という基本方針を掲げ、中学校部活動についても「新たな学びのスタイル」の一つとして学校部活動改革の方向性を打ち出し、個別施策として「部活動スタートアップ事業」に取り組んできた。

その中で、令和7年度末までに休日の学校部活動を段階的に地域移行・地域展開を着手していくため、「大学や民間企業等との連携・協働」、「スポーツ協会や各競技団体との連携・協働」、「地域学校協働活動の活用」という3つのスキームを活用して、各中学校区および各競技種目団体が知恵を出し合いながら取り組み、多くの成功事例を生み出すことができた。

#### ●今後に向けて

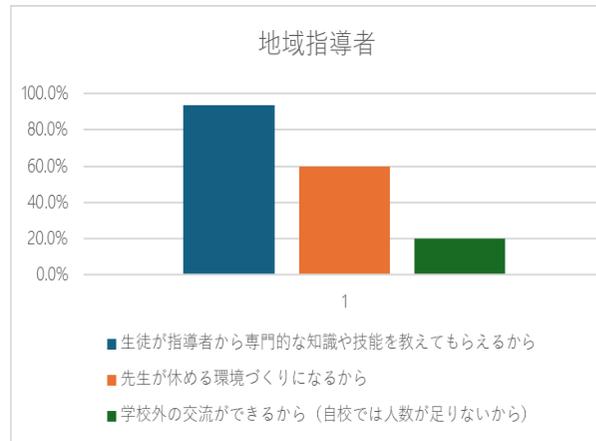
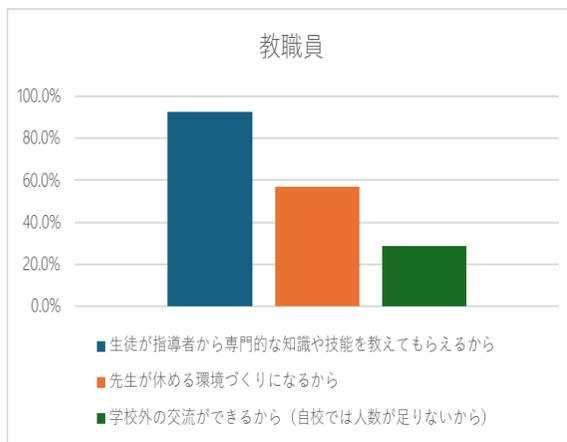
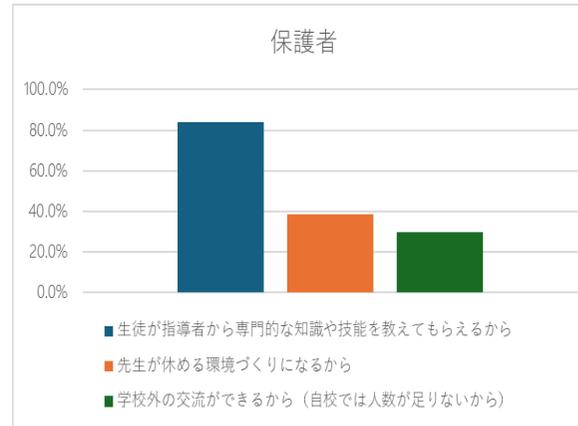
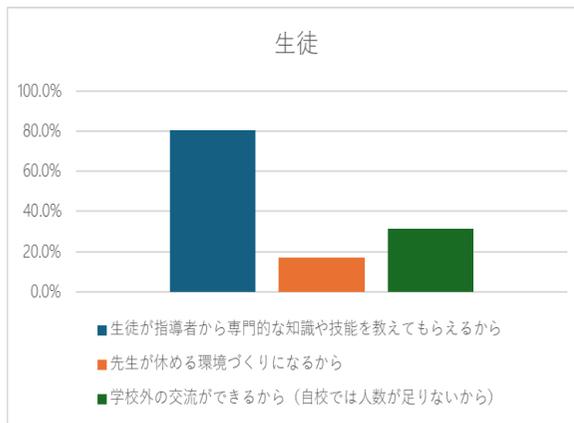
部活動はこれまでも中学校の教育活動として多くの成果を上げてきたという意義を踏まえ、今年度の取組を新たなスポーツ・文化芸術活動の創造と位置付けて、部活動改革と合わせて推進していく。一方で、急激な変化に弱いという学校文化の特徴を踏まえ、生徒や保護者はもとより教職員にも混乱や不安が生じないように、取組を進めていくことも転換期としては重要であると考えている。

来年度以降は、休日の学校部活動に代わる地域クラブ活動を行える実施団体を市教育委員会と首長部局、さらには学校が協働して進めていくことを目指していきたい。

## アンケート結果・参加者の声

### ●アンケート結果

Q.休日の学校部活動が段階的に地域クラブ活動に代わることに、賛成意見の割合



### ●参加者の声

#### 中学1年生

地域クラブ活動ではより専門的な知識や技能が教えてもらえるため、自分にとってはとてもありがたかったです。活動も月に1・2回程度だったので負担感はありませんでした。

#### 保護者

先生方が休日の学校部活動に携わらなくて良いという環境づくりが、こうした取組で出来ることが大切だと考えます。月に1度、年に数回でも取組を少しずつ実施することで変化が出ると思います。

#### 教職員

これまで何十年と中学校にある学校部活動をいきなり大幅にかえることは難しく、いきなりトップダウンでやろうとするのには無理が生じると学校現場はわかっているからこそ、秦野市の取組は素晴らしいと思う。

#### 指導者

実際に先生方が行ってきた学校部活動顧問をすべて担うのは難しいと思うが、専門的な知識や技能は出来る限り子どもたちに伝えられると思う。これからも取組には参加して、より良い環境を目指したい。

## 広報資料

資料1

### 部活動改革が目指すもの ～部活動スタートアップ事業について～

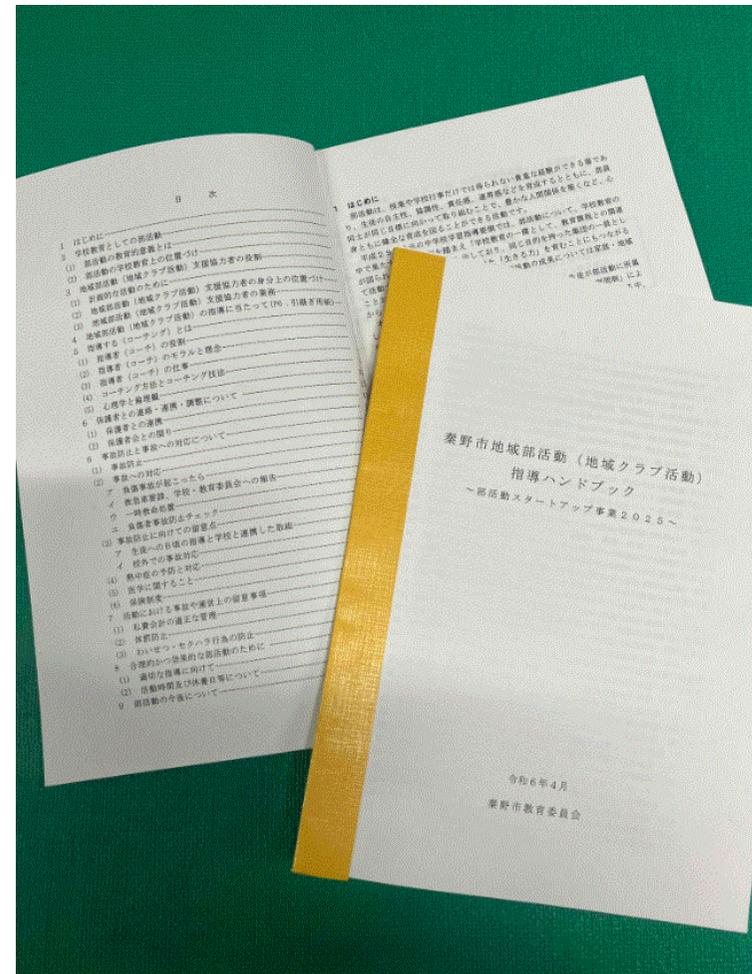
令和6年8月20日(火)

#### 秦野市教育委員会 教育指導課

### 指導者が「教える」から 子どもたちが「選ぶ」「学ぶ」 ～新しい文化・スポーツ活動の創造へ～

水とみどりに育まれ  
誰もが輝く暮らしよい都市(まち)

【関係団体等への説明資料】



【秦野市地域部活動(地域クラブ活動)指導ハンドブック】

## 2.実証内容と成果④

### 参考資料（活動写真）



【東中学校バレーボールクラブ】



【大根中学校体操クラブ】



【市内中学校剣道クラブ】



【東中学校野球クラブ】



## 2.実証内容と成果④

### 参考資料（活動写真）



【市スポーツ協会と連携したバスケットボールクリニック】



【総合型スポーツクラブによる地域クラブ活動】

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和3年度

中学校部活動  
検討会での協  
議開始

実施方法等の  
検討及び3つ  
のスキームの提  
示

令和4年度

学校現場との  
調整

生徒、保護者へ  
の説明

令和5・6年度

継続的な地域ク  
ラブ活動の開始

令和7年度

地域クラブ活動  
の拡大

#### ●ステークホルダー

各中学校・スポーツ推進課・市スポーツ協会・各競技団体・市中学校体育連盟

#### ●経過

少子化が進み各校の生徒数は減少し、今後も減少が見込まれる。現在の体制では、生徒の様々なスポーツ・文化活動の維持は困難が予想され、学校部活動が果たしてきた教育的な意義を継承できる体制づくりが必要となった。

#### ●実施にあたって生じた課題

教職員の考え方を把握して必要性があった。

#### ●実施内容、工夫した点等

- ・中学校部活動検討会での協議
- ・中学校体育連盟との大会運営に関する検討

#### ●ステークホルダー

各中学校・スポーツ推進課・市スポーツ協会・各競技団体・市中学校体育連盟・近隣大学・市PTA連絡協議会

#### ●経過

学校部活動をそのまま地域クラブ化にするという急激な変化は、生徒や保護者の混乱につながるため、「ねばならぬもの」として考えるのではなく、柔軟な考え方を持ちながら実証研究を開始した。休日の学校部活動から段階的に地域移行・地域展開し、生徒が文化・スポーツ活動に親しむ機会の確保を目指していくための協議を深めた。

#### ●実施にあたって生じた課題

指導者の数と質の確保が重要であった。

#### ●実施内容、工夫した点等

「地域部活動（地域クラブ活動）指導ハンドブック」を作成

#### ●ステークホルダー

各中学校・スポーツ推進課・市スポーツ協会・各競技団体・市中学校体育連盟・近隣大学・市PTA連絡協議会・総合型地域スポーツクラブ

#### ●経過

地域クラブ活動の安定化を図るために、指導者の人材確保と活動における一定の受益者負担の在り方について検討していく。また、現在の地域部活動支援協力者に対する研修会の在り方を見直すと共に、運営団体・実施主体の検討を始め、市の学校部活動に代わる地域クラブ化の方針策定に向けて検討していく。

#### ●実施にあたって生じた課題

学校施設の継続的かつ優先的な使用を可能にすること。

#### ●実施内容、工夫した点等

総合型地域スポーツクラブの代表者を定期的に学校に派遣

# 3. 今後の方向性

## 地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

### 秦野市・秦野市教育委員会 部活動改革スケジュール（案）

	2022年 (R4年度)	2023年 (R5年度)	2024年 (R6年度)	2025年 (R7年度)	R8
<p><b>秦野市教育委員会</b></p> <p>○各中学校へのヒアリングとスキームの提示</p> <p>○生徒及び保護者への共通理解を図るための説明会の実施</p> <p>○活動指導を希望する教職員の人材確保・フォーラムの開催</p> <p>○市内中学校体育連盟との協議（大会参加規程等）</p> <p>○指導者バンク（「地域部活動支援協力者」）の管理・運営、研修会等の実施</p>	<p>「部活動スタートアッププラン」方針策定</p>	<p>第二期 実証事業開始</p> <p>・近隣大学との連携</p>	<p>第三期 実証事業開始</p> <p>・総合型地域スポーツクラブとの連携</p>	<p>委託事業への展開検討</p>	<p>休日のすべての学校部活動を地域移行・地域展開として着手する</p>
<p><b>秦野市（スポーツ推進課）</b></p> <p>○スポーツ協会との連絡・調整</p> <p>○各種競技団体（連盟等）との連絡・調整</p> <p>○総合型地域スポーツクラブとの連絡・調整</p>	<p>R3年度から休日の学校部活動の地域移行の実証事業開始（第一期）</p> <p>・急激な変化を現場に生まない。</p> <p>・各校の実情に応じて段階的かつ柔軟的に取り組む。</p> <p>・複数の実施方法を提示する。</p>	<p>休日の学校部活動の地域移行 準備期間（教職員現行）</p> <p>* 地域指導者を「地域部活動支援協力者」に登録することを推進</p> <p>* R8年度を見据え、教員任意による地域クラブ起ち上げも可能</p>	<p>地域学校協働活動（学校運営協議会）の活用スキーム</p> <p>スポーツ協会（各種目団体）との連携・協働スキーム</p> <p>東海大学や総合型地域スポーツクラブ・民間企業等と連携したスキーム</p>	<p>剣道（市剣道連盟・市スポーツ協会と連携した体制として、合同部活動の枠組みで実施）</p> <p>R8年度から休日の学校部活動の地域移行に向けて各種目競技団体に説明開始</p> <p>陸上競技 * 剣道と同じ体制</p> <p>各競技における地域クラブの起ち上げ</p> <p>パレーボール・ソフトテニス（地域クラブ）</p>	